財団法人 日本ハンドボール協会編　平成24年 9月1日発行(毎月1回1日発行)　通巻529号　昭和40年6月7日第3種郵便物認可

ハンドボール

特集
ジャパンカップ2012
第17回ヒロシマ国際
第2回全日本社会人選手権大会
第32回全国クラブ選手権東・西地区大会

AUG.SEP.2012・No.529

[表紙写真:ジャパンカップ女子MVPに選ばれた山根エレナ選手]

財団法人 日本ハンドボール協会
http://www.handball.jp/

強化本部長就任にあたって

（財）日本ハンドボール協会常務理事 強化本部長　津川　昭

昨年８月、強化のバックアップをして欲しいというお話を頂戴し、十数年振りにハンドボール界に復帰させていただいた。この一年、ギャップを埋めるべく、代表を始め各カテゴリーの練習見学や試合に帯同させていただき、自分なりの現状分析を繰り返した。「失われた10年」と言われたバブル崩壊後の日本経済が「失われた20年」となり、それでもなおスパイラルから抜け出せないでいるように、ハンドボール界も「打倒韓国」だけでなく中東やカザフスタンの台頭など、時にはアジアでさえ５位、６位と、明確な打開策は見えてこないまま、ずるずると順位を下げている。

それでもここ何年か関係諸氏のご努力で、ナショナルトレーニングシステム、ナショナルジュニアアカデミー、各カテゴリー間の指導体系の一本化など、選手の発掘、個の育成と有効な手が打たれつつある。また味の素ナショナルトレーニングセンターの完成、toto、スポーツ振興基金からの助成など、かつてからすればソフト、ハードとも格段の進歩が見られる。また、日韓が執念で成し遂げた「中東の笛」対策も功を奏し、今では全く健全な大会運営がなされている。

一方、オルソン監督が提唱した選手の大型化も、より進化しフィジカル面も充実、個々の選手のパワーアップも確実に図られてきた。ボールの扱いやすさもありシュートの種類も増え、攻撃力も増強されてきたようにも見える。

先般、男子ジュニアアジア選手権に帯同させていただいたが、優勝したカタールなどは全員が帰化選手であり、代表も14名は帰化選手とのこと、2015年自国開催の世界選手権では、確実に６位入賞どころかメダルを狙っているのが感じられる。これらが今後の五輪等の、すべてのアジア予選の壁となる。日本も必死で強化しているが、世界のスピードに追いついていないのが現状ではないだろうか。

ではもう追い越す術は無いのか…？　私は正直、まだまだ捨てたものではないと思っている。克服すべき課題は山ほどあるにしても、おおいに可能性を秘めている。特に男子代表レベルのフィジカルの充実を、もう少し若年層から徹底するなど、体幹の強化と瞬発系の強化が求められる他、スピードの追求がジャパンスタンダードと思われがちだが、本来、日本の強みは、チームとしての統制力・徹底力の高さで、「ジャスト　イン　タイム」、まさに「ドンピシャ」の正確さを連続攻撃の中に繰り入れる方が、それに近いと考えている。いずれにせよ、韓国の真似でも欧州の真似でも無い、セオリーの逆をいくような発想が必要だろう。また、日本リーグ、学生リーグのレベルアップは必要不可欠で、そのレベルが上がらずして、代表チームのレベルを上げるのは困難になる。日本ハンドボール界の強化責任者として、強化体制の再構築を推進する。

昨日開幕したロンドンオリンピック開会式の映像を見つつ、リオの開会式には日本のハンドボーラーの姿がそこにあるように、全身全霊をかけて職務をまっとうしたいと思います。

皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

JAPAN CUP 2012 TOYOTA GAMES

大会期間：2012年6月8日～10日

試合結果

■男子
優勝　韓国
2位　中国
3位　日本

■女子
優勝　日本
2位　中国
3位　韓国

個人表彰

■男子
MVP　Kim Se Ho（韓国No.20）
敢闘賞　Wang Wei　（中国No.20）

■女子
MVP　山根エレナ（日本No.1）
敢闘賞　Sha Zhengwen（中国No.18）

星取表

男子		韓国	中国	日本	数	勝-分-敗	得点	失点	差	点
1位	韓国		30○10	30○23	2	2-0-0	60	33	27	4
2位	中国	10●30		28○25	2	1-0-1	38	55	-17	2
3位	日本	23●30	25●28		2	0-0-2	48	58	-10	0

女子		日本	中国	韓国	数	勝-分-敗	得点	失点	差	点
1位	日本		24○21	33○29	2	2-0-0	57	50	7	4
2位	中国	21●24		36○28	2	1-0-1	57	52	5	2
3位	韓国	29●33	28●36		2	0-0-2	57	69	-12	0

ジャパンカップ2012 TOYOTA GAMES　～次世代の奮闘～

豊田市ハンドボール協会・ジャパンカップ2012実行委員　冨森 達人

“このチームなら突破してくれる”日本代表チームは多くの「期待」を背負ってロンドンオリンピック世界最終予選に臨んだが、またしても世界の大舞台に足を踏み入れることは叶わなかった。

愛知県では豊田市で開催されるこのジャパンカップを皮切りに、マスターズ、インターハイ、全国中学生大会といった大きな大会が計画されており、“中東の笛”で幻となった北京予選以来、久々に活気が増しています。

春も終わりを迎える頃、ジャパンカップに向けた運営会議で、正式に日本代表チームを新メンバーで構成することが伝えられ、若き日本代表の“リオ・オリンピックに向けた挑戦”を後押しできる大会になるよう、日本協会のサポートを受けながら、愛知県と豊田市のメンバーで力を合わせ取り組みました。

新たな「期待」の中、若き日本代表は韓国、中国の代表チームを相手に全力で立ち向かい、男子は敗れたものの、女子は見事に優勝してくれました。結成して間もない中で奮闘する若者の姿を間近にして、この大会をやって良かった、リオまでこの日本代表を応援し続けよう、そう思わせてくれる闘いぶりでした。これから先、若き日本代表チームが歩むリオへの道のりは長くて険しいですが、「心・技・体」、特に「心」、勝利への執念、大和魂、周囲への感謝などを胸に自身を鍛えぬき、必ずやオリンピック出場を果たして欲しいと思います。

会場にはロンドン予選を闘った選手も多く駆けつけていました。次世代を見守る、もしくは再び代表ユニフォームを着て共にリオを目指すことになる後輩たちを励ます想いでしょうか。

大会を支える裏舞台でも次世代が奔走していました。今日のハンドボール競技の普及や、国内メジャー大会の盛り上りがあるのは、中央、地方それぞれの協会の先人方がご尽力を積み重ねてきた証です。その想いを引き継ぎ、更に発展させていくために、“世代交代”をしていく必要があります。

豊田市ハンドボール協会では、その局面をこの大会で向かえました。私たち中堅が、運営の中心となっていくためのチャレンジでした。わからないことも多々ある中、ただひたすらに準備を続け、時には情熱に溢れる方々のエネルギーを貰いながら、ようやく大会初日を迎えることができました。至らない部分も多く、期間中も日々改善しながらの運営ではありましたが、何とか大会を終えることができました。

会場を最後まで片付けきった時、次世代メンバーで「次の大会も頑張ろう！」と声を掛け合えた時に感じました。この貴重な経験が地域の財産となり、新たな力になっていくことが、先人方の「期待」に応え、想いをつなげていくことだと。

最後になりましたが、このジャパンカップ開催を支えて下さった多くの皆さま、会場にお越しくださったハンドボールファンの皆さまに心から感謝しております。

男子

"JAPAN CUP 2012 TOYOTA GAMES" を終えて

男子日本代表監督 田口 隆

まず、はじめに今大会の開催にあたりご尽力いただいた皆様に御礼申し上げます。ロンドンオリンピック予選敗退となった今､将来に向けて期待される選手たちはもちろんのこと、私たちスタッフも大変貴重な経験をさせていただきました。

【選手選考】

選手選考にあたり、協会よりロンドンオリンピック世界最終予選に参加した18名を除いてチーム編成にあたるように指示を受けました。これは世界最終予選において死力を尽くし戦ってくれた選手に続く選手たちに国際経験を積ませ、選手間（チーム内）に競争する環境を作ろうと意図したものでした。

今回のメンバー選考では "大型選手＆サウスポー" に主眼を置き作業を進めました。大型選手についてはバックプレーヤー＆ポストプレーヤーが所属チームでのポジションであり、左サイドで専門職的にプレーする選手は選考しませんでした。これは大型サイドプレーヤーの育成を考えたものでした。小柄でもスピードがある選手に加え、大型で中央4枚のディフェンスが出来るプレーヤーが育つことによりチームの戦い方に幅が出来るからです。サウスポーについてはオフェンスでのプレーの幅を広げる意味でも不可欠であり選手層を上げるための育成という考えからでした。

石川（大崎電気）・石戸（トヨタ車体）については大型ではないものの、チーム編成上プレーの繋ぎ手として貴重な存在として選考しました。

【大会準備】

今回、選考した選手は過去の世界学生日本代表・2010年度NEO日本代表・2012年度NEO日本代表と酒巻ジャパンのメンバーでしたので、過去・現在においてそれらのチーム強化に関わっていただいている中山コーチ・大城コーチ・松井コーチの財産を使わせていただき、短期間でのチーム作りを進めました。初回の強化合宿でのミーティングでは"JAPAN CUP 優勝" と各自が "リオを目指す選手である" ということが確認・同意されたところからスタートを切りました。「トレーニングは試合のように！　試合はトレーニングのように！」という取り組み姿勢で２度の強化合宿でのオフェンス・ディフェンスのチーム戦術の共有化とコンディショニングを行いました。また､トレーニング成果の確認として大崎電気・トヨタ車体の両チームのご協力のもとにトレーニングマッチを行いました。

【大会結果】

第１戦　日本　25（10 − 12・15 − 16）28　中国
第２戦　日本　23（11 − 16・12 − 14）30　韓国

という試合結果で第３位という不本意な大会結果となりました。リオデジャネイロオリンピックに向けての最初の国際試合ということからチーム一丸で戦ったものの、皆様の期待にこたえることが出来ず、監督として大変申し訳なく思っています。

しかしながら、今回選考した選手の大半は所属チームではまだ一試合通してコートに立っていない現状を考えると、将来的にゲームの流れの中での的確な判断や統制力を身につけた時の期待感は、選手を近くでみた私としては感じるものがありました。このことからも大会終了後に私のほうからは「其々の選手がこの先、まずは所属チームにおいて主力としてゲームを支配出来る選手に育って日本代表に帰って来い」ということを伝えました。

大会期間中に多くの方々が会場に足を運んでいただき声援を送っていただきました。立派な大会運営で貴重な国際経験を多くの方々に支えていただきました。その他にも多くの方々から激励をいただきました。多くの方々の "期待" を感じることが出来ました。これに選手・スタッフの "自身への期待" を合わせ、それをエネルギーに変えていかなくてはいけないことをチーム全員が深く胸に刻み大会を終えました。

JAPAN CUP 2012を終えて

男子日本代表キャプテン 石川 出

６月８日〜10日まで愛知県豊田市で開催されたJAPAN CUP2012を終えて私が感じたことは、韓国や中国との差はほとんどなく日本のプレーも通用すると言うことです。しかし、今回の結果はとても悔しく情けない結果だったとも感じています。日の丸を付け､国の代表として戦っている以上は、結果に拘り１点差でも勝たなくてはいけない。それが代表選手の責任であり、使命だと考えていますが、今回はそれが出来ませんでした。出来なかった自分達に腹が立ちますし、応援してくださった方々に申し訳ない気持ちでいっぱいです。

ですが、今回の試合では良い経験が出来たと思います。まだ若いチームなのでもっと経験を積む事やチームとしての考えや戦術などを統一することが必要だと考えます。まさに今回の試合では、チームとしての戦術が統一出来ていなかった為、選手同士でプレーが合わずミスをしてしまい相手に速攻を許す場面が多々ありました。そしてDFでもコミュニケーション不足から連携がとれず、相手に点を取られてしまう事がありました。しかし、合宿などを重ねていくことで意思統一や戦術の統一などは出来るはずです。あとはコミュニケーションを沢山とり、チームとして一体になることが大切だと考えます。

このチームは将来が楽しみなチームだと私は感じました。次のリオで開催されるオリンピックに向けて頑張っていきたいと思います。

女 子

JAPAN CUP 2012 TOYOTA GAMES に出場して

女子日本代表監督 荷川取義浩

まず、大会の開催にあたりご尽力を頂きました、日本ハンドボール協会、並びに愛知県ハンドボール協会・豊田市ハンドボール協会をはじめとします関係各位の皆様方に心より御礼申し上げます。

設営・企画・運営ととても素晴らしく、チームとしては結果を出して皆様方の頑張りに応えたいと思いました。

ロンドンオリンピック世界最終予選は残念ながら男女共に突破できず、悔しい結果に終わりましたが、リオデジャネイロオリンピックを目指し、若いメンバーで臨んだ今大会。

まず、6月1日から強化合宿をスタートしました。私は女子ジュニア強化部長の立場で暫定監督を引き受ける事になり、斉藤コーチと俵トレーナーの3人で準備期間の短い中、ディフェンス・オフェンスのポイントの確認→修正を繰り返し行い、豊田入りをしました。

初戦は、韓国チームとの対戦。キャプテン石野を中心にディフェンスが機能して、田邉・乾の連続速攻が決まり、序盤からリードする。9分から早川・乾・相沢の3連取で10対5とする。GK山根が好守を連発する一方、CPもしぶとく攻めて、得点を重ねる。終盤の7mスローも網谷がシャットアウト。18対12で前半を折り返す。

後半に入り、積極的にディフェンスを仕掛けてくる韓国に対し、慌てることなく得点を重ねていたが、15分過ぎに退場者を出して3連取され、26対22。さらに19分に再び退場者を出しピンチを迎えるが、石野・乾の活躍で凌ぎ、早川の連続得点で23分に31対25とし、終盤を迎える。そのリードを活かした形で逃げ切り、33対29で勝利を収める。

翌日の韓国対中国の試合で、中国が勝利し、最終日に優勝をかけて、中国と対戦する。その中国戦の立ち上がりから大型ポストに苦しめられるも要所をGK山根が体を張ったキーピングで阻止。21分までに7対8とリードを許していたが、前田に続き石野が2連取して逆転に成功。1点返されたが、後藤が速攻を決めて、11対9で前半を終える。

後半に入ってもチャンスを作るが、大型GKに止められ、波に乗れず、一進一退の時間帯が続く。15分には、16対16とされたが、そこから前田・錦織・後藤の3連取で再びリードする。結局、そのリードを守り切り、24対21で勝利し、優勝を飾った。

会場に応援に駆け付けて多くの観客の皆様方、大会関係者の皆様方のおかげで優勝することができました。この場をお借りして、心から御礼申し上げます。

試合内容は、GKを中心としたディフェンスが機能し、守り切った事は評価できるものの、大型GKに再三に渡り、ノーマークシュートを阻止され、得点が伸びなっかた事は次回以降の課題となった。このメンバーでの最初の国際大会、優勝できた事は今後の自信に繋がると思います。

今後も熱いご声援を宜しくお願い申し上げます。有難うございました。

JAPAN CUP 2012 TOYOTA GAMES に出場して

女子日本代表キャプテン 石野実加子

6月8日から10日にかけ、愛知県豊田市で開催されたジャパンカップで優勝でき、本当に嬉しく思います。私たち日本は若手の日本代表として出場しました。

急遽招集されたメンバーであり、大会までの合宿期間が約1週間しかない状況であったため、合わせる時間も限られていました。監督が、自身が所属している北国銀行の監督であるため、監督の思う戦術をいかに早くチームに浸透できるか不安な部分もありましたが、全員がコミュニケーションを積極的に取り、1プレーに対しても思うことがあったら話す、といったことでその不安は日に日に解消されていきました。

初戦は日本が長年ライバルとしている韓国でした。韓国はジュニアのチームで構成されていて、相手が自分達よりも若いということもあり、絶対に負けられない戦いでした。スタートから自分達のDFから速攻が決まり、日本のペースで試合を運ぶことができ、勝利することができました。

大会最終日に中国との優勝決定戦となりました。中国は平均身長が約178cmと大きい選手揃いで、いかに大きさと戦うかが課題です。世界の選手も自分達よりも大きい選手がほとんどです。DFは、普段より1歩前に出て積極的に守り、速攻につなげること、OFは、ワイドに広げておいて日本のスピードを活かした攻撃をすることを意識しました。また、中国は戻りの意識が薄いため、積極的にクイックスタートも仕掛けていきました。このことに加え、みんなの「勝ちたい」という強い気持ちも重なり中国に勝利し、優勝を収めることができました。

急造チームで、細かい部分の課題はまだまだ多いですが、それぞれが自身の持ち味を活かし、結果を残せたことは本当によかったと思います。こうして私達が活動できるのも、多くの関係者各位の支えがあってからこそであり、本当に心から感謝しております。ありがとうございました。

第17回 ヒロシマ国際ハンドボール大会

大会期間：2012年7月20日～22日

総　評

広島県ハンドボール協会理事長　山本　一

1994年の第12回広島アジア大会のメモリアル大会として翌年から開催されているヒロシマ国際ハンドボール大会も、今年で17回目となりました。（2003年はSARS騒動のため中止）

日本ハンドボール界の悲願であるオリンピック出場も男女とも世界最終予選まで進みましたが、ヨーロッパの厚い壁に阻まれオリンピック壮行試合を兼ねることはできませんでした。今回は次代の日本代表として期待される選手がノミネートされた男女日本代表、来年4年に一度の国体を控えた上海（男子・中国）、プサンビスコ（女子・韓国）に加え地元広島から湧永製薬、広島メイプルレッズの計6チームの参加となりました。

男女とも3チームずつの参加のため各チームとも2試合を戦いました。男女日本代表はチーム編成に時間がなく初戦は湧永、メイプルに敗れ前途多難の船出となりました。

2試合目はメイプルレッズはプサンビスコに逆転負け、最終日の日本、韓国戦の結果待ちとなりましたが、湧永は上海に圧勝し早々と最終日を待たず一位で終えました。

最終戦は日本代表が男女とも勝ち結果は別記の通りとなりました。

例年通り暑い中での試合となりましたが、ハンドボールシーズンの開幕を待っていたファンには多数会場に足を運んでいただき感謝しています。特に最終日は地元チームも出場せず観客が少ないのではと心配していましたが、午前中に全国中学校大会広島県予選決勝戦を行なったこともあり、3日間の中で一番多くの観客数を数えることができました。

最終日には例年通り試合終了後広島市内のホテルで表彰式、サヨナラパーティを行ない大会の幕を閉じました。サヨナラパーティでは、外国チームにはなでしこJAPAN一躍有名になった広島の名産熊野の化粧筆セット、日本チームにはオタフクお好み焼き詰め合わせセットを大会記念としてお持ち帰りいただきました。

サヨナラパーティの外国チームとの懇親会は、広島市スポーツ協会の山根恒弘会長も和気あいあいの雰囲気がとてもいいと感心されていました。

最後に大会を開催するに当たり広島県、広島市をはじめ各方面から多大の協力協賛をいただいたことに感謝いたします。特に今大会の各ゲームをネット配信して下さった湧永製薬（株）様には改めてお礼申し上げます。

最終順位

男子	女子
優勝：湧永製薬	優勝：日本代表
2位：日本代表	2位：広島メイプルレッズ
3位：中国・上海	3位：韓国・プサンビスコ

個人表彰

男子	女子
［最優秀選手賞］	［最優秀選手賞］
志水孝行（湧永製薬）	錦織　新（日本代表）
［優秀選手賞］	［優秀選手賞］
佐藤智仁（湧永製薬）	相沢莉乃（日本代表）
小澤広太（日本代表）	大前典子（広島メイプルレッズ）
ウー・ジン（中国・上海）	ウォン・ミナ（韓国・プサンビスコ）

戦　評

【男子】

■7月20日（金）

湧永製薬　27（12－10、15－13）23　日本代表

前半、湧永製薬2番谷村の速攻、18番中浦のポストシュートが決まり湧永製薬の2点リードで試合が始まる。日本代表は5分過ぎ3番小澤の速攻と14番渡部のサイドシュートの連続得点で同点とする。その後、互いに相手ディフェンスを崩しきれずシュートを放つもなかなか得点に繋がらず、一進一退の試合展開となる。29分過ぎ湧永製薬11番樋口のカットインシュートが決まり湧永製薬が2点リードで前半が終了した。後半は立ち上がりから湧永製薬のペースで着実に得点を重ね、後半11分過ぎ湧永製薬が20対13と7点リードする。日本代表も中盤から粘りを見せ25分過ぎ3番小澤の速攻で1点差と追い上げる。しかし、湧永製薬も終盤3連続得点を挙げ、またGK志水の好守もあり湧永製薬が日本代表の追撃をかわし、27対23の4点差で日本代表に勝利した。

［個人得点］渡部：6点、小澤：4点、小室・棚原・信太：3点、野村：2点、石戸・石川：1点

■7月21日（土）

湧永製薬　30（17－11、13－12）23　中国上海

試合は序盤から湧永2番谷村、5番成田のシュートが良く決まり、湧永製薬がゲームのペースをつかみ優位に試合を進めていった。上海も高さを活かした攻撃で湧永に食らいついていくが、ディフェンスが湧永製薬の攻撃についてゆけず、じりじりと点差を広げられていった。試合は17対11の湧永の6点リードで前半を折り返した。後半開始からは上海がペースを握る。湧永のシュートミスやディフェンスが上海の高さに押し切られる場面が見られるようになり、点差も3点と詰め寄られた。その後、シュートの精度が上がってきた湧永が再び6点差として、そのまま逃げ切った。

■7月22日（日）

日本代表　37（14－12、23－11）23　中国上海

日本は出だし、2度のパワープレーを活かすことが出来ず、6分まで2対1とロースコアの展開。ここから、守って3番小澤の連続速攻などで8分過ぎまでに5対1と得点差を4とする。好守とも動きの良くなった上海が盛り返し、15分過ぎ

星取表

男子		湧永製薬	日本代表	中国上海	数	勝 - 分 - 敗	得点	失点	差	点
1 位	湧永製薬		27 ○ 23	30 ○ 23	2	2- 0- 0	57	46	11	4
2 位	日本代表	23 ● 27		37 ○ 23	2	1- 0- 1	60	50	10	2
3 位	中国・上海	23 ● 30	23 ● 37		2	0- 0- 2	46	67	-21	0

女子		日本代表	広島メイ	韓国プサ	数	勝 - 分 - 敗	得点	失点	差	点
1 位	日本代表		30 ● 31	33 ○ 25	2	1- 0- 1	63	56	7	2
2 位	広島メイプルレッズ	31 ○ 30		31 ● 33	2	1- 0- 1	62	63	-1	2
3 位	韓国・プサンビスコ	25 ● 33	33 ○ 31		2	1- 0- 1	58	64	-6	2

までにポスト 10 番の活躍もあり 6 対 6 と同点とする。中盤から終盤に差し掛かっても、一進一退の攻防は続き、27 分まで 13 対 11 と日本が 2 点リード。若手起用の中、代表経験の多い 15 番野村、3 番小澤の活躍で何とかリードを保ち前半を 14 対 12 で折り返した。後半立ち上がり、後半から出場の 4 番石戸の活躍もあり、6 分過ぎまでに 19 対 14 と 5 点差に。上海はタイムアウト。しかし、徐々に力の差が出てきたか、速攻などで連続失点を許す上海は、13 分過ぎまでに 16 対 23 と 7 点差をつけられた。何とか粘りを見せたい上海だが、この日得点を上げた 10 番が孤軍奮闘を見せるも差は開き、25 分には 30 対 21 と 9 点差をつけられ万事休す。日本は、メンバーチェンジを繰り返しながらも、随所にコンビプレーを披露、3 番小澤、11 番信太らの活躍もあり、上海を一蹴、37 対 23、14 点差をつけて勝利した。

[個人得点] 小澤：9 点、信太：6 点、今村：4 点、棚原・渡部・野村・中村：3 点、石戸・小室・千々波：2 点

【女子】

■7 月 20 日（金）

広島メイプルレッズ　31（17 − 11、14 − 19）30　日本代表

立ち上がりから両チーム交互に点を取り合い、シーソーゲームとなったが、メイプルは相手のミスに乗じた速攻などで徐々にリードを広げた。日本代表も懸命に追い上げようとするが、パスミスなど細かいミスが目立ち、なかなか点差をつめることができず、17 対 11 とメイプルが 6 点差を付けて前半を終えた。後半に入ると、逆にメイプルの動きが止まり、日本代表が攻勢に転じ、6 分過ぎには 16 対 18 と 2 点差まで追い詰めた。メイプルはたまらずタイムアウトを請求し、落ち着かせようとするが、代表の勢いは止まらず、遂に 8 分 30 秒 18 対 18 の同点に追いついた。日本代表としては、一気に逆転したいところだったが、さすがにメイプルもそれは許さず、高山の連続速攻などでリードした。日本代表も最後まであきらめず一進一退の攻防が続き、最終的に 31 対 30 でメイプルが勝利した。

[個人得点] 錦織：7 点、山野・前田・相沢：4 点、原・後藤：3 点、石井・池原：2 点、石野：1 点

■7 月 21 日（土）

韓国プサンビスコ　33（15 − 18、18 − 13）31　広島メイプルレッズ

メイプルレッズはプサンビスコの 3-2-1 ディフェンスに対し攻めあぐね、ミスを連発。サイドがチャンスを作るもののなかなか波に乗れず、我慢の時間帯が続く。プサンビスコは高さを武器にポストを絡めた攻撃でメイプルレッズに対抗。クイックスタートも多用し得点を重ねた。両者とも試合の流れを引き寄せることが出来ず、20 分過ぎまで互角の展開を見せる。20 分過ぎから速攻で得点を重ねたメイプルレッズが抜け出し 18 対 15 の 3 点差で前半を折り返した。後半開始からプサンビスコが攻勢に出る。メイプル GK 堂面の好セーブで何とか踏みとどまるメイプルレッズであったが、10 分 30 秒にはとうとう同点に追いつかれた。その後、一進一退の攻防を繰り返した両チームであったが、わずかにシュートの精度で勝ったプサンビスコが 2 点リードを奪う。リードを許したメイプルレッズは体制の立て直しを図り、タイムアウトを請求した。タイムアウト後 3 点差となるプサンビスコの単独速攻を GK 田口がファインセーブ、流れを引き戻したメイプルレッズは 25 分過ぎに逆転、抜きつ抜かれつの好ゲームとなった。27 分プサンビスコが再逆転、28 分に連続得点で 2 点をリードした。メイプルレッズも粘りを見せたが、33 対 31 でプサンビスコが勝利を収めた。

■7 月 22 日（日）

日本代表　33（17 − 13、16 − 12）25　韓国プサンビスコ

試合は立ち上がりから両者互角の展開、高さのプサンビスコに対し速さの日本代表の勝負となった。プサンビスコの速攻は抑えるものの、高さに対応しきれない日本代表は 2 点差になった 20 分過ぎにタイムアウトを請求した。流れはプサンビスコかと思われたが、日本代表は攻守に足を良く動かし粘り強さを見せ、遂に 25 分には逆転。勢いに乗った日本代表は出足の鋭いディフェンスでプサンビスコの高さを封じ、一気に抜け出し 17 対 13 とし日本代表の 4 点リードで前半を折り返した。後半になっても日本代表の優勢は変わらない。サイドからの攻撃、速攻で得点を重ね 6 分過ぎには 6 点に差は広がった。ここでプサンビスコがタイムアウトを請求、試合の流れを変えようとするが、主導権は日本代表ががっちりと握ったままであった。プサンビスコのポスト攻撃に対応が遅れ始めた日本代表は体制の立て直しを図り、タイムアウトを請求した。しかし、体制を立て直しきれずプサンビスコの追い上げを許した。プサンビスコの GK の好セーブにもシュートを阻まれ、20 分過ぎには一時 8 点あった差が 2 点にまで縮まった。しかし、ここから日本代表も自分たちのペースを取り戻し、再加速。そのまま勢いに乗った日本代表が 33 対 25 で勝利を収めた。

[個人得点] 相沢：6 点、石野：5 点、前田・石井・原：4 点、山野・錦織：3 点、後藤：2 点、池原・八十島：1 点

第18回女子ジュニア世界選手権

18th Women's Junior Handball World Championship　大会期間：2012年7月11日～14日

【最終順位】

優勝：スウェーデン　2位：フランス　3位：ハンガリー　4位：セルビア　5位：ロシア　6位：韓　国
7位：ポーランド　8位：ノルウェー　9位：デンマーク　10位：クロアチア　11位：オーストリア　12位：ブラジル
13位：ルーマニア　14位：スペイン　15位：チェコ　16位：コンゴ共和国　17位：オランダ　18位：ウルグアイ
19位：アンゴラ　20位：アルゼンチン　**21位：日　本**　22位：中　国　23位：チュニジア　24位：カザフスタン

女子ジュニア団長　西窪 勝広

南モラビア地方の州都で、国際見本市も開催されるチェコの第二の都市ブルノで「第18回女子ジュニア世界選手権大会」のC、Dグループ予選ラウンドが開催された。

今大会は24カ国を4グループに分け上位4カ国が決勝ラウンドへ下位2カ国がプレジデントカップ（順位決定戦）へと進む方式で運営された。

予選ラウンドCグループに属した日本はオーストリア、ロシア、フランス、ポーランド、アンゴラとの戦いとなった。

各国の体格	平均身長	平均体重	国際試合数
日　本	167	60	5
オーストリア	174	65	45
ロシア	176	63	43
フランス	175	64	18
ポーランド	175	67	20
アンゴラ	175	74	不明
今大会平均	174	67	26
優勝国（スウェーデン）	177	69	24

■大会運営

チェコハンドボール協会会長が常に各会場を回り細かい指示を出し、C、Dグループに関してはなんら大きな問題なく運営され、アンゴラ、ブラジル、チュニジアと同じホテルで食事についても問題はなかった。IHFムスタファ会長が各会場を視察、C、Dグループも大会4日目に来場された。

■テクニカルミーティング

Brandi Marco Tosi（ITA）がC、Dグループのテクニカルミーティングのオフィシャルで出席、タイムアウト3回、ハーフタイム15分　ユニフォーム確認等無事終了した。

ローランド、西窪　出席

■試合運営

C、DグループはAbu-Marzouo Naser（KUW）が常に管理し、負傷（演技）に関する遅延行為に関しては厳しく管理しており、規定時間内で終了する運営が目に付いた。

気候的な問題（エアコン無し）で発汗のためフロアーがぬれる事が多く、フロアーをふく時間での遅延があった事は致し方ないと感じた。

その他の運営に関してはなんら問題なかったが、Cグループに関して観客は無に等しい状況であり、オーストリア、アンゴラは5、6名の私設応援が毎試合来場していた。

■レフリー

全てIHF、Marco Tosi（ITA）がレフェリー割り当てを管理していた。アジアからはクエート、中国、イランがノミネートされ各国若いレフェリーに切り替わり女子レフェリー（デンマーク）も一組ノミネートされCグループでも違和感ない笛であった。特にオーバーステップに関しては大変厳しく判定していた。ただし、若いレフェリーのためかアドバンテージの解釈に差を感じた。

予選ラウンド、プレジデントカップの詳細は田中監督の報告を参照して頂くとし、細かい試合内容には触れないが田中監督の「闘争心あふれるDF､速攻での得点」の強化方針の下、組織的なDF、気迫あふれる攻撃で予選ラウンドは厳しい戦いではあった。60分間戦う体力強化が表現でき評価に値する戦いであったが、如何せん国際試合経験の無さが露呈された予選ラウンドであった。また、ハーフタイム15分は、日本にとって体力を回復する時間になった事は間違いない。

プレジデントカップのチュニジア戦は前半DFのリズムが取れず点の取り合いとなったが後半は田中監督の闘争心あるDFが機能し終始日本のリズムで展開しチームにとって本当にうれしい勝ち星を挙げることが出来た。

日本にとっての最終戦の中国戦は今後アジアで戦う国であり、勝利できた事はこの年代にととって大きな糧となったことは間違いない。

予選リーグの各国の国際試合数を参考にして欲しいが、やはり如何に国際大会での対戦経験が大切であるか今後の強化策の重点項目でもあることも再確認した。

田中監督の戦術、ローランドコーチの選手指導が調和し、クレバーな采配と木目細かい分析で日本選手をコントロールしたスタッフの力量は評価でき、選手のケアに日々勤めて頂いた佐久間、高野内両氏に心からお礼申し上げたい。

今回の戦いを垣間見、日本の伝統でもあるボールへの執着心、日本選手のスピード、テクニックは各国と比較しても絶対に劣っているとは感じない内容であったが、如何せん大型選手との接触経験がなくポストでの対応が今回も浮き彫りになった。若手が早くからグローバルの中でもまれ自律的に自分がどんな選手になりたいか、そのために自ら何をすべきか主体性を持って道を切り拓く選手が日本に一人でも必要であ

化されてきているが、当然のごとくドーピングの違法性を訴える担当者の話を聞き選手への指導のあり方を再確認した。

今大会の全ての試合内容、各国の戦術を細かく分析し課題を明確にして日本ハンドボール協会全体の課題として取り組み、日本の将来を見据えた強化に努めたい。

終わりに、国内合宿、海外遠征等にご支援いただいた役員、選手の所属関係各位に心よりお礼を申し上げます。また、応援していただいた全国のハンドボール愛好家並びに関係者の皆様に深く御礼申し上げ報告といたします。

る。このカテゴリーで海外経験を今後強化策の中にいかに取り組むかが日本代表に繋がる大きな課題でもある。

ドーピングに関して日本ハンドボール協会も厳しくルール

女子ジュニア監督　田中　茂

今大会を通じて、選手たちが全力で戦ってくれたことは評価したいと思います。しかしながら、多くの選手が大型選手に対する予測、準備が自分たちの考えと差があったことは間違いないと思います。当然、練習の段階から何度も選手たちには伝えてきましたが、実際に体験してみないと理解できない部分でもあると感じています。

予選グループは、ヨーロッパ（ロシア、フランス、オーストリア、ポーランド）とアフリカ（アンゴラ）との戦いでありましたが、大会前から世界の強豪に勝つための方法を自分なりに考え取り組んできました（基本方針）。試合内容では一方的な試合結果に見えるかもしれませんが、大会後半になると基本方針の考えがパフォーマンスとして発揮でき勝利につながってきました。当然ですが選手たちは、チームとして試合を重ねるにつれ強くなっていった結果だと思います。

DFに関して、DFは当然体格面での差があり1対1の場面強化（1対2、もしくインにDFシフトをしき中へ抜かせない）を練習で取り組み、アグレッシブなDF（4－2、変則4－2）もDFの変化を与える意味で時間を掛けて取り組んできた。結果的には攻撃の初期動作には対応できていましたが、最終局面での粘り、または少しのずれからシュートを打たれ、結果的には得点を奪われました。打開策としてよりセンターを中心にコンパクトに、また変則的に5－1DFでボールが回らないように変化し対応していきましたが有効なDFとして言えるまでは機能できませんでした。ゴールキーパーも同様に高さ、スピードの変化に対応できていない場面が多く、キーピングの考えを指導し修正を行い、後半の試合ではかなりのセーブ率を上げることができました。

OFに関して、練習で取り組んできた速攻では、チーム全体得点の31％を速攻による得点で上げる事が出来ました。当然ですが、体格で劣る日本人が体格に関係なく得点シーンをつくることができる速攻に、時間をかけて取り組んできた成果が出たと思います。速攻の特徴としてまずは、両サイドの飛び出しを通常判断よりもかなり早くさせ、また2次速攻にしても常に縦へのパスのみを狙い、ポジションに固定することなくボールを各人がフリーで受け取るスペースへポジショニングすることで1次、2次、3次と相手DFをかく乱し、ちょっとしたタイミング、スペースの確保により速攻による得点を取ることができました。

またセットOFでは、アウト攻撃を中心に攻撃展開を行い、広がったところでポスト、カットインを狙う戦術を取り入れてきました（スライド攻撃）。試合でのサイドシュート場面が多くなってはいるものの成功確率が非常に低く全体の得点の14％（シュート成功率30％）しか取ることができませんでした。このポジションでのシュート確率を上げる事が課題として残りました。また、今後の課題になりますが、広がったDFに対しポストプレーヤーとのコンビネーションの幅（パターン）をつくると共にパスを出す方法論をもっとしっかりと練習する必要があったと反省しています。

チームとして、OF、DFでの基本方針が最後まで完全に徹底されていなかった事を深く反省しております。しかしながら選手たちは今大会を通じて間違いなく成長したと感じております。

また私見として、全体的にこの年代の世界との差を大きく感じませんでした。なぜならば大型選手はいるもののこの段階で意図的（戦術的）に攻撃されても、どうしても守れないと感じた場面はなかったからです。当然ですがこの後の経験やトレーニング環境等の違いからくる差を将来的に日本がどのように強化していくか考えなければならないと感じています。今後も、この大会を経験した選手たち、また今大会に出られなかった有望選手を一貫して定期的に合宿ができるように、多くの方々と話し合いをし、協力を賜り実現させていきたいと思います。

最後になりましたが、第18回女子世界ジュニアに参加しました選手所属大学、実業団の所属長、監督の皆様、また多くの方々にご支援、ご協力を賜りました事を深く感謝いたします。ありがとうございました。

女子ジュニアキャプテン　渡邉 裕奈

私たち女子ジュニアは7月1日～14日までチェコで行われた世界選手権に行ってきました。5月、6月と2度の強化合宿をし、6月22日から最終調整を行いつつ大会へと臨みました。充分とはいえない短期間での練習で大会に臨まなければならない現状に不安を感じつつも、東京での合宿、ハンガリーでの練習、ハンガリーのチームとのゲームマッチなどで、少しずつチームらしくなっていくのが感じられました。

7月に入り世界選手権が始まり、私たちはロシア・フランス・オーストリア・ポーランド・アンゴラといったグループでの戦いでした。グループでは1勝もすることができませんでしたが、フランスやオーストリアといった今回の大会で上位になったチームと戦ってみて、戦えない相手ではないということを実感しました。体の大きさが異なっても戦術次第では守れるし、点がとれます。ただそれを60分間やり抜く体力がまだまだ私たちには足りません。予選グループを戦い抜くなかで私たちがものにできる試合がありました。でも、大事なところで守れなかったり、点がとれなかったりと試合の勝ち方もまだまだわかっていませんでした。

今大会を通じてまたハンドボールの難しさや、団体競技の難しさを知りました。勝ちたい！という気持ちがたった一人でも薄れてしまえば、そこが穴となりそこからどんどん穴が広がってしまいます。今大会でも試合をしているなかで何度もそのようなことを感じました。世界の選手に比べて大きい体もなければパワーもない私たちが、一番相手と戦わなければならない部分の強さを全員がしっかりと持てておらず、私たち選手が日本の代表として試合をしているという自覚とプライドが欠けていたということです。気持ちの部分から相手に勝ることができていない私たちは当然試合に勝つことなどできません。選手自身の甘さを痛感させられた大会となりました。それでも、私たち選手の事をどんなときでも信じて下さった監督、コーチ。寝る間を惜しんで体の調子を整えてくれたドクター、トレーナー。厳しい言葉をかけてくださった団長。いつも応援してくれていた親、周りの人たちがいて支援があったからこそ世界の舞台にたつことができました。

5敗2勝で21位といった試合の結果としては納得いく結果ではなく、もっとできたのではないかと悔やむ部分もたくさんありますが、今回のこの大会を通じて個々に感じたものや得たもの経験できたものはたくさんあります。それを、それぞれの場所で生かしてまた次のステップに繋ぐために頑張っていきたいと思います。

応援してくださった方々と、恵まれた環境で貴重な体験・ハンドボールができたことに感謝しています。ありがとうございました。

戦　評

●7月1日（日）

日本　16（6-14、10-14）28　ロシア

日本のスローオフで試合がスタート。日本はDFの粘りと相手シュートミス等で立ち上がりロシアの攻撃を防ぐが、高さとパワーのあるロシアDFを思うように攻めきれず両チームとも得点が取れない。4分過ぎロシアのカットインを許すものの、渡邉の7M、高宮の速攻で日本がリードを奪う。この後も両チームともDFで粘り、15分過ぎまで2対3とロシア1点差で試合が進む。その後、日本のミスからロシアに速攻を許し20分過ぎには3対7と4点差に、日本も何とか攻撃のチャンスは作るもののシュートを打ち切れず得点が延びない。逆にその間にロシアの速攻、ロングシュート等を許し、前半を6対14の8点差で折り返す。

後半に入り、ロシアはスピーディーな選手にメンバーを替え、速攻、カットイン、ミドルシュートで得点を重ね、15分過ぎには、8対23と15点差にされる。日本は、タイムアウト後、もう一度DFを確認し速攻で得点を重ねていくよう指示。後半、替わって入ったサイド石井、太刀川の速攻、また竹下の速攻で連続得点をあげ、追い上げにかかるが、前半と後半の立ち上がりの連続失点が最後まで響き、16対28の12点差で初戦のロシア戦を落とす。

［個人得点］竹下：4点、高宮：3点、渡邉・石井・太刀川：2点、一木・小舘・川畑：1点

●7月2日（月）

日本　25（7-22、18-16）38　フランス

フランスボールで前半スタート、開始5分間、日本は攻撃でチャンスを作るがシュートを決められず、その間フランスのサイドシュート、ポストで連取される、その後もフランスに攻められ立ち上がりの10分で、日本は高宮の速攻による1得点、フランスは10得点と差を広げられる。その間の日本は、スピードでアウト攻撃を中心に攻めるが、最後のフィニッシュのサイドシュートの精度が低く、なかなか加点する事が出来ないまま前半を7対22の15点差で折り返す。

後半、4－2DFに変更し積極的にボールを奪い、速攻に繋げるよう指示、後半の前半は、渡邉、森本、石井がカットインを積極的に試み、連続得点を奪う、後半15分15対30となった所で、3－3DFに変更、相手OFの足も止まり、フランスのテクニカルミスも増え、インターセプト、GK板野のセーブもあり、日本は速攻に繋げ、渡邉、高宮、竹下、矢崎、一木の速攻で加点していき、後半25分には21対36となる。その後も、竹下、森本の速攻で加点していくもの

の前半立ち上がりの得点差を返す事ができず25対38の13点差で予選リーグ２敗目となる。前半のチャンス時のシュートミスが最後まで響いた試合であった。
［個人得点］渡邉：6点、竹下・森本：5点、一木：3点、高宮・太刀川：２点、矢崎・石井：１点

●7月3日（火）

日本　27（10-15、17-20）35　オーストリア

前半立ち上がり、日本はフォーメーション、速攻と得点チャンスはあるものの、大型GKに対してシュートミスが続き、８分には、０対６と相手にリードを許す苦しい展開に。日本は６－０DFで守っていたが、相手の高さある攻撃、また大型選手のポストプレーを防ぐ事が出来ない。７分過ぎには、相手センターに石井がマンツーマンについた所で、相手オフェンスがうまく機能しなくなりテクニカルミスをきっかけに13分過ぎには動きの鈍くなった相手に対し、石井、高宮がマンツーマンに付き、相手の攻撃を守り。竹下、森本、林と速攻、渡邉、森本のカットインによる連続得点で15分には８対10と２点差までつめる。その後、石井の退場をきっかけに、相手ポスト、カットインと連続得点を許し、前半を10対15の５点差で折り返す。

後半立ち上がり、日本はより積極的にDFラインを上げアグレッシブに守るものの、相手もフリースローでロング、ポストで得点をあげる。日本は前半の後半同様に、守って速攻を中心に攻撃を組み立て、一木、石井、渡邉、森本、竹下で加点はしていくものの、要所で速攻ノーマーク、セットでサイドシュートミスが目立ちチャンスはあるものの得点を縮める事が出来ない。残り５分、日本は竹下、渡邉、一木の速攻による連続得点をとるがタイムアップとなる。この試合もシュートミスでチャンスをまた勝利を逃した試合であった。
［個人得点］竹下：9点、渡邉・森本：4点、高宮：3点、一木・石井：２点、水田・林・太刀川：１点

サイドレポート　第18回女子ジュニア世界選手権から…

（1）シュート成功率とキーパーセーブ率から見た戦績（予選リーグCグループ）

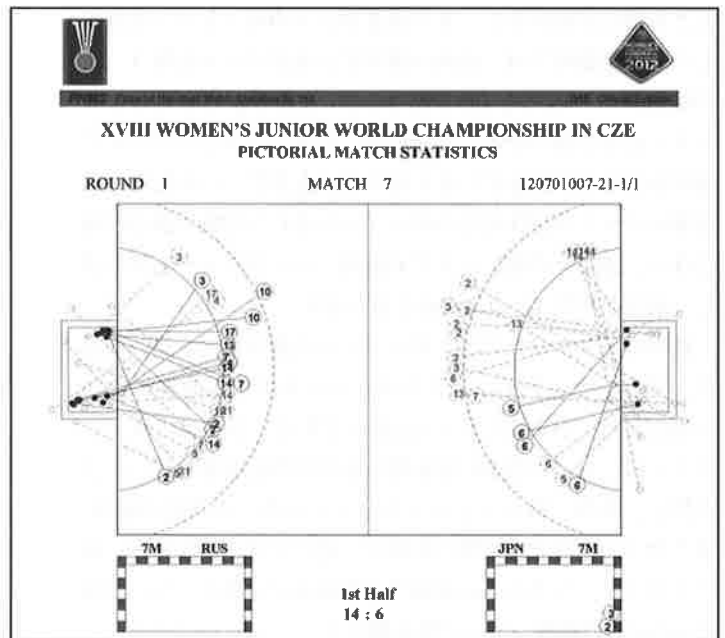
（注）：各得点の、上段はシュート成功率、下段はキーパーセーブ率、カッコ内は内訳数値（IHF MATCH STATISTICS FOR MEDIAS より）

Cグループ		RUS	FRA	AUT	POL	ANG	JPN	シュート成功率	キーパーセイブ率
1位	ロシア (RUS)		47.8 (22/46) 22 ○ 21 34.4 (11/32)	51.6 (33/64) 33 ○ 28 24.3 (9/37)	52.3 (34/65) 34 ○ 27 20.6 (7/34)	56.9 (37/65) 37 ○ 28 26.3 (10/38)	50.9 (28/55) 28 ○ 16 52.9 (18/34)	52.2 (154/295)	31.4 (55/175)
2位	フランス (FRA)	46.7 (21/45) 21 ● 22 43.6 (17/39)		46.2 (18/39) 18 △ 18 45.5 (15/33)	51.0 (25/49) 25 ○ 24 38.5 (15/39)	61.1 (33/54) 33 ○ 15 53.1 (17/32)	70.4 (38/54) 38 ○ 25 49.0 (24/49)	56.0 (135/241)	45.8 (88/192)
3位	オーストリア (AUT)	62.2 (28/45) 28 ● 33 32.7 (16/49)	34.6 (18/52) 18 △ 18 33.3 (9/27)		64.9 (37/57) 37 ○ 29 37.0 (17/46)	54.5 (30/55) 30 ○ 20 28.6 (8/28)	62.5 (35/56) 35 ○ 27 40.0 (18/45)	55.8 (148/265)	34.8 (68/195)
4位	ポーランド (POL)	60.0 (27/45) 27 ● 34 30.6 (15/49)	42.9 (24/56) 24 ● 25 39.0 (16/41)	52.7 (29/55) 29 ● 37 26.0 (13/50)		56.3 (27/48) 27 ○ 20 31.0 (9/29)	61.8 (34/55) 34 ○ 21 36.4 (12/33)	54.4 (141/259)	32.1 (65/202)
5位	アンゴラ (ANG)	59.6 (28/47) 28 ● 37 27.5 (14/51)	30.6 (15/49) 15 ● 33 28.3 (13/46)	45.5 (20/44) 20 ● 30 37.5 (18/48)	57.1 (20/35) 20 ● 27 32.5 (13/40)		52.6 (30/57) 30 ○ 27 34.1 (14/41)	48.7 (113/232)	31.8 (72/226)
6位	日本 (JPN)	34.0 (16/47) 16 ● 28 36.4 (16/44)	43.9 (25/57) 25 ● 38 19.1 (9/47)	38.6 (27/70) 27 ● 35 28.6 (14/49)	43.8 (21/48) 21 ● 34 27.7 (13/47)	49.1 (27/55) 27 ● 30 31.8 (14/44)		41.8 (116/277)	28.5 (66/231)

（2）IHFの大会HPからは、各試合毎に4種類のレポートが見れる。

ロシアと日本の対戦結果では、（FTR MTR PBP OMR）が全部で12頁に亘り報告されている。
世界選手権と比較しても、内容が一層充実してきている感がある。幾つかを紹介すると…

その1；PICTORIAL MATCH STATISTICS（図解によるシュート位置とゴールプレイス）
選手ごとに、シュートをした位置、ゴールポストへのシュートコース、得点に拘わらず全て図解されている。7MTも打ったコースが示されている（外したコースも同様に）。従来の、SHOT REPORTから更に進化した優れものである。（右図を参照下さい）

その2；MATCH PROCESS（試合開始から終了までの状況）
時間を追って、選手が起こした、攻撃側反則、守備側反則、得点、警告、ミスなどの行動記録が詳細にレポートされている。ゲームを観戦していなくとも、ゲームの展開が推測可能な情報が満載である。

第13回男子ジュニアアジア選手権

13th Asian Men's Junior Handball Championship

大会期間：2012年6月30日～7月13日

■最終順位

優勝：カタール　2位：韓国　3位：クウェート　4位：サウジアラビア　**5位：日本**　6位：イラン　7位：バーレーン
8位：ＵＡＥ　9位：チャイニーズタイペイ　10位：イラク　11位：香港　12位：ウズベキスタン　13位：レバノン　14位：マカオ

第13回男子ジュニアアジア選手権

男子ジュニア団長　津川　昭

日本各地で記録的な豪雨が続く中、灼熱のカタール、ドーハで来年の世界ジュニア大会アジア予選（上位３チームが世界大会出場）を兼ね、第13回男子ジュニアアジア選手権が開催された。つい代表チームの動向ばかりに気が行き、私自身はそこまでの感覚は無かったのだが、日本は実に28年間もの間、このカテゴリーで世界大会に出場できていない。途中、いわゆる「中東の笛」問題があったにせよ、五輪とは違いアジア枠として２～３ヶ国あるにもかかわらずである。

今回のチーム目標は、当然世界大会への切符獲得であるが、また同時にここ数年、日本ハンドボール界が取り組んできた、NTS、ジュニアアカデミー、指導体制の一本化などの強化施策が問われる大会でもある。何故なら今回の出場メンバーは、ほぼ全員がそのルートに乗った選手であり、2010年のユースアジア選手権の出場メンバーでもあるからだ。

我々は本大会に入る前に、カタールの隣国であるバーレーンに立ち寄り、時差の調整と同国ジュニアチームと３ゲーム行うことができた。これは同国ハンドボール協会のイズマイル氏のご好意によるもので、今年２月に代表チームが同様にお世話になった他、９月同国で開催されるユースアジア選手権でも事前に来て調整したらどうかと言って頂いている。選手団のホテル代・食事代全て先方持ちである。同氏は広島アジア大会そして、一昨年広島国際で来日しており、その時日本の方々に大変良くして頂いたからとのことで、今後もアジアにおける各種大会が中東で開催される可能性は高く、拠点となる国を持つということは大変重要なことである。今更ながら国際交流の必要性を強く感じた次第である。

本大会が開催されたカタールは、世界金融危機など微塵も感じさせないほど活気付いており、さすがは国民一人当たりのGDPが世界一というのもうなずける。所得税はもちろん法人税すら無いそうで、医療費、教育費、電気代も無料。外は45度以上の熱風が吹き荒れていても、ホールの内部は20度少ししかなく、観戦するには上着が必要なほど。現地の方に伺うと、それがサービスと考えられているそうである。各施設も充実しており、体育館には必ずクラッシュアイスの製氷機も設置されている。大会運営も比較的スムースで、選手係りの人的ミス以外は問題ない。レフリングも多少の上手い下手はあっても不正は全く感じられず、多くの警察官により、安全も確保されている。また、目新しいサービスとしてランドリーサービスがあり、毎日一人シャツ１枚、パンツ１枚までは無償で対応してくれる。海外チームから時折ユニフォームは洗濯してくれないのか？という要望を出されるケースがあるが、ジュニアの大会ですらここまでの配慮がなされている。

さて肝心なゲームであるが、バーレーンでの調整合宿からゲームをこなす毎に課題が修正され、徐々にたくましさが芽生え、予選リーグは無敗で一位通過することができた。初戦クウェートに思わぬ大敗（13点差）を喫した韓国であるが、その後立ち直りバーレーンに大勝、からくもＣ組２位としてメインランドに進出、日本と対戦することとなった。このチームの大半の選手は２年前のアジアユースで韓国と引き分けているが、その後の韓国選手の入れ替わりは私自身定かで無い。この韓国に14点差という思わぬ大敗を喫し、好回転していた歯車が逆回転してしまった。結果、世界大会へ絶対負けられないサウジ戦をも落とすこととなった。それでも最後のイラン戦を執念で勝利し５位で終えたが、またしても世界への切符を手にすることができなかった。

日本チームは昨年６月より、田口監督、佐藤コーチの熱心な指導の下、強化活動を続けてきたが、文科省指導要綱による出席重視など、土日主体の合宿計画しか組めない状況であった。それでも監督・コーチが日本リーグ出身であり、これらの胸を借りて経験を積み上げた。一方、今回優勝のカタールは選手全員が帰化選手であり、2m近い選手が３人、それも大きいだけでなく韓国の二次速攻を食らわないだけの走力を持っている。カタールは2015年の世界選手権開催国であり、強化のターゲットは完全に同大会でのメダル獲得と思われる。これらが今後全ての世界大会予選の障壁となることは明白である。日本の強化も今度こそ強い信念を持った改革ができなければ、五輪など遠い夢で終わる。

スポーツ大会誘致を積極的に行うカタールだけに、在カタール日本人の皆さんは色々な競技の応援に行くそうだが、今回も毎試合日本人学校の生徒さんや、大使館員の奥様はじめ多くの方に応援頂いた。門司大使もご多忙の中イラク戦を観戦頂いた。ハンドボールを初めてご覧になる方が多かったのですが、皆さんすっかり「はまられて」、毎試合お越しになる方が多く、こんなに盛り上がったのは久し振りだとおっしゃっておられた。選手達のひた向きなプレーが好感を呼んだのだと思う。また、多田副会長のご配慮で、三井物産ドーハ事務所、所長宅にご招待頂き、久し振りの日本食をご馳走になった。所長宅と言っても接待場所の無いお国柄、迎賓館も兼ねられており、アラビア湾に面するとてもおしゃれな場所だった。日本人駐在員の方にも参加頂き、これから就活に入る学生にとって、とても刺激になったことと思う。

満足できる成績は残せなかったが、多くの皆様に支えられて遠征できたことに感謝し、報告とさせていただく。

第13回男子アジアジュニア選手権を終えて

男子ジュニア監督　田口　隆

まず、はじめに今大会出場に際し、ご理解・ご協力いただきました関係者の皆様に御礼申し上げます。男子日本代表がソウルオリンピック出場以前から、男子ジュニア日本代表は世界選手権への出場から遠ざかっています。ロンドンオリンピックへの出場が断たれた今、是が非でも将来に向けて期待される選手たちを世界選手権という舞台に立たせ経験を積ませて日本代表へ送り込むという使命のもと、第13回男子ジュニアアジア選手権へ参加しました。

【大会への準備】

2011年6月に第13回男子アジジュニア選手権候補選手を選出し、強化を進めてきました。2012年6月にはトライアルとしてJAPAN CUP前座試合にて愛知選抜&トヨタ車体の日本リーグ選手の胸を借りました。大会直前にはバーレーン協会の招待による親善試合を3試合行い、大会開催地のカタール・ドーハ入りしました。

初回の強化合宿でのミーティングでは“第13回男子アジアジュニア選手権優勝”と各自が“日本代表選手である”ということが確認•同意されたところからスタートを切りました。「トレーニングは試合のように！試合はトレーニングのように！」という取り組み姿勢で、強化合宿でのオフェンス・ディフェンスの個人技術・チーム戦術の共有化とコンディショニングを行いました。また、トレーニング成果の確認として、トヨタ車体•豊田合成・Hondaの社会人チームをはじめ関東・東海の大学チームのご協力のもとにトレーニングマッチを行いました。

【大会結果】

■予選ラウンド

第1戦　日本　48（22－7・26－5）12　マカオ
第2戦　日本　32（15－11・17－5）16　香港
第3戦　日本　29（16－11・13－6）17　イラク
第4戦　日本　35（17－11・18－11）22　イラン

■決勝ラウンド

第1戦　日本　21（11－15・10－20）35　韓国
第2戦　日本　29（12－18・17－13）31　サウジアラビア

■5・6位決定戦

日本　35（20－16・15－14）30　イラン

という試合結果で第5位という不本意な大会結果となりました。優勝した地元カタールは16名のベンチ入り選手全員が帰化選手で、2015年地元開催の世界選手権に向けてシニア・ジュニアとも強化が加速している感がありました。準優勝の韓国はどのチームよりも成熟度が高く、オフェンス戦術も1vs1だけでなく2vs2・3vs3を崩す術を持ち合わせていました。第3位のクウェートも主力9名は既に国内リーグ1部でプレーさせているとのことで、どの国もジュニア選手の育成に力を注いでいるのが現状です。

リオデジャネイロオリンピックに向けての第一歩としての位置づけという使命を受けての今大会出場でしたが、皆様の期待にこたえることが出来ず、監督として大変申し訳なく思っています。しかしながら、選手は其々に光るものを持っており、この後に自分自身で“気付き”が芽生えることにより、大きく成長する期待はこの1年間選手を近くでみた私としては感じるものがありました。

大会期間中に現地在住の方々が会場に足を運んでいただいて声援を送っていただきました。日本からも応援メッセージを送っていただきました。多くの方々から激励をいただきました。“期待”されるチーム・“期待”される選手になることをチーム全員が深く胸に刻み大会を終えました。

男子ジュニアアジア選手権を終えて

男子ジュニアキャプテン　元木 博紀

私は、今回U-21のキャプテンとしてアジア選手権に参加してきた。U-21の世代では28年間世界選手権の切符を獲得できていないのが現実である。28年ぶりの世界選手権の切符を求め、強化合宿を重ね、大会に臨んだ。大会では、日本の武器である「スピード」を活かしたプレーが数多く見られたが、世界選手権の切符を獲得できなかった。しかし、世界への道は、そう遠くないように感じた。近い将来、世界選手権の切符を獲得できるだろう。日本が目指すハンドボールの方向性は正しいと感じた。

アジアの中でも中東勢にはフィジカルの差があり、韓国にはテクニックや判断力に大きな差を感じた。また、環境の違いや連戦に耐えうる体力も必要だと感じた。日本の武器である「スピード」を活かしたプレーを最後まで徹底できなかったことが敗因だと考える。

現にカタール代表の選手のほとんどは帰化選手であった。ジュニアの世代と言えども、ナショナルクラスの選手も多く見られた。世界各国では、ジュニア代表と言えば代表予備軍だが、日本ではそうした位置づけがされていないのが現状である。

これから日本が世界に進出し、戦っていくうえで「スピード」を活かしたプレーを最後までやり抜く体力、素早いプレーの中で正確な状況判断が重要だと考える。また、不利な状況をはね返す個人技やテクニックも必要だと考える。こうしたことを身につけることができたら、世界への道も開けるだろう。

戦評

◆6月30日（土）

日本　48（22－7、26－5）12　マカオ

スタート、相手のミスをつきシュートまで行くが、開幕戦の固さからかフィニッシュが決まらない。格下のマカオに不意を突かれたミドルシュートを決められ15分まで6対6の同点。加藤のセーブから東江・久保・松本の連続速攻でリズムを掴むと元木・柳が続き、13対7とリードを奪う。相手のスタミナが切れたところを手を緩めず前半22対7折り返す。相手のイージミスや苦し紛れのシュートを佐藤や元木、松本などが速攻

につなげ、後半10分で32対9とリードを広げ、控えの選手とメンバーチェンジ。交代した選手も意識が高く、最後まで攻め立て、全員がゴールを決め48対12で開幕戦を勝利した。
[個人得点] 森田：8点、元木・杉本・東江：5点、上野・久保・松本：4点、堤・柳：3点、村田・内海・玉城：2点、佐藤：1点

◆7月1日（日）
日本　32（15－11、17－5）16　香港
スタート、相手のロングシュートを加藤がセーブし、元木の速攻、東江のカットイン、柳のサイドなどで4対2とリードを奪う。中盤、相手のテクニックミスの隙をつき速攻で11対4とする。しかし利手側から簡単なシュートを決められ、またシュートミスが続き流れが掴めず、前半を15対11で折り返す。久保のカットイン、元木の速攻、ロングで得点するも、相手エースに不意を突かれてロングを決められ、中盤まで21対15と突き放すことができない。しかしDFシステムを3：2：1DFにチェンジすると、トップ森田、2枚目上野・堤がアグレッシブに動き始め、相手の勢いが止まる。相手のイージミスや佐々木のセーブから森田・上野・杉本などの速攻が決まり、終わってみれば32対16とダブルスコアであった。
[個人得点] 柳:8点、元木:7点、森田・東江:4点、上野・杉本:3点、久保：2点、松本：1点

◆7月2日（月）
日本　29（16－11、13－6）17　イラク
スタート、久保のロング・カットイン、東江の速攻・ロング、元木の速攻からのロング、森田のサイドが決まり7対0。開幕三戦目にして初のスタートダッシュに成功する。相手もカットインやポストで応戦してくるが、日本は杉本の速攻、元木・東江のロング・カットインで攻撃の手を緩めず、11対3とリードを広げる。しかし終盤、日本はロングシュートが決まらなくなり、また簡単にポストで失点し、前半を16対11で折り返す。後半、日本は中東で誕生日を迎えた加藤がスーパーセーブを連発。DFでは、森田・上野が献身的な働きを続け相手に簡単に得点を与えず、結果29対17と快勝した。
[個人得点] 久保・東江：7点、元木：6点、杉本：3点、上野・松本・森田：2点

◆7月5日（木）
日本　35（17－11、18－11）22　イラン
スタート、東江のロング、元木のカットインで2対0とする。イランもカットイン・ロングで応戦するが、日本も負けじと杉本の速攻で取り返す。中盤まで互角の展開であったが、イランのスタミナ切れで足が止まったところを元木の逆スピンシュートや杉本の速攻、森田のカットインなどで突き放し、前半17対11と6点リードで折り返す。後半、相手のロングシュートを加藤が気迫のセーブで凌ぐ。元木ロング、森田のサイド、東江の速攻、久保のカットインで22対12とリードを広げる。イランは元木にマンツーなど様々なDFで仕掛けてくるが、日本は落ち着いて間を狙い、攻撃の手を緩めない。終わってみれば35対22と圧勝であった。
[個人得点] 元木：11点、東江：8点、久保・森田：4点、杉本：3点、柳：2点、内海・玉城・松本：1点

◆7月8日（日）：決勝ラウンド第1戦目
日本　21（11－15、10－20）35　韓国
スタート、元木のロング・東江のカットインで2対0とする。しかし日本のシュートミスが続いたところを韓国に1対1からポスト・サイドで決められ2対3と逆転される。更に1対1からロングを決められ4対7とされるが、元木のロング、杉本のサイドシュートで7対8とする。終盤の勝負所、日本の攻撃のリズムが悪くなり、韓国はシュートをきっちり決め、前半11対15の4点ビハインドで折り返す。後半、相手が5人の時に森田の速攻で追い上げムードになりかけるが、退場者を出し波に乗れず13対18。韓国も連続で退場者を出し、チャンスのところをポストのマークミスで失点してしまい追い付くことができない。焦りからかシュートを狙わなくなったところをパスカットなどで逆速攻され、大差がついてしまった。
[個人得点] 元木：7点、東江：4点、久保・森田：3点、松本：2点、堤・杉本：1点

◆7月9日（月）：決勝ラウンド第2戦目
日本　29（12－18、17－13）31　サウジアラビア
スタート、サウジアラビアの左利のバックプレーヤーにロングを決められるが、日本も元木のロングで反撃する。サウジアラビアの左バックプレーヤーのエースにカットインで決められ2対3と先攻されるが、日本も元木のロング、杉本のサイドで追いすがる。10分過ぎから相手サイドのきりでマークミスが起き失点が止まらない。サウジアラビアが元木に対して変形DFを仕掛ける。そこでミスが続き、5対13と8点差とされる。しかし日本は交代した堤の活躍などで12対18とし、後半に望みをつなげる。後半、日本はDFのリズムを取り戻し、守って速攻から玉城・村田の得点や相手が退場者を出した隙にスタート。10分過ぎ、1点差まで追い上げる。サウジアラビアはタイムアウトを請求し、その後セット攻撃でしつこく攻め立てる。日本も元木や東江のロングで逆転を試みるがシュートミスなどで2点差が縮まらず、前半が悔やまれる敗戦となった。
[個人得点] 元木：10点、玉城・東江：4点、堤・杉本：3点、村田：2点、久保・柳・森田：1点

◆7月11日（水）：5位－6位決定戦
日本　35（20－16、15－14）30　イラン
スタート、東江のロングで先制、イランもサイドとポストで応戦。東江の速攻やサウジアラビア戦から絶好調の村田の連続得点などで11対8とリード。イランもエースのロングシュートで追いすがる。日本も東江が最後の力を振り絞り、速攻やカットインで突き放しにかかり、前半20対16と4点差で折り返す。後半、日本はセーフティーリードを広げたいところ。速攻でミスを繰り返し、波に乗れない。イランが勢いを取り戻し、左バックプレーヤーのロング、両サイドからの得点で24対24と同点とされる。日本は、一度速攻を止めて落ち着き、玉城のサイド、東江のカットインで26対24と主導権を渡さない。イランも左バックプレーヤーの11mからのロングを武器に2点差をついてくる。総力戦で戦う日本は、交代した松本の連続得点や玉城のカットインで4点差とし、フル出場の森田がカットインを決め、35対30で最終戦を勝利で終えた。
[個人得点] 東江：9点、元木・村田・玉城：5点、森田：4点、松本：3点、上野・久保・堤・杉本：1点

最終順位

■男子

金メダル	カタール
銀メダル	バーレーン
銅メダル	パキスタン
4位	オマーン
5位	特別参加（クウェート）
6位	中国
7位	**日本**
8位	タイ
9位	インド
10位	アフガニスタン
11位	香港
12位	ベトナム
13位	スリランカ
14位	モンゴル

■女子

金メダル	中国
銀メダル	チャイニーズタイペイ
銅メダル	ベトナム
4位	タイ
5位	**日本**
6位	トルクメニスタン
7位	香港
8位	ヨルダン
9位	インド
10位	フィリピン

第3回アジアビーチゲームズ ビーチハンドボール競技 大会報告　団長　川上 憲太

OCA 開催第3回アジアビーチゲームズは6月16日～22日に中華人民共和国山東省海陽市にて開かれました。13競技49種目が実施され、日本は7競技21種目に参加、連日晴天に恵まれ、盛況の中、競技が展開されました。海陽市は青島から130㎞に位置する黄海に面する長い海岸を持つ都市で、この大会の後、一大リゾート地として（2万5千戸のリゾートマンションを建設中）中国の富裕層を中心に発展を考えている地域でありました。ビーチハンドボールはその大会会場の一角に男子14ヵ国女子10ヵ国が参加して行われました。ちなみに男子は日本・中国・タイ・チャイニーズタイペイ・香港・ベトナム・モンゴル・パキスタン・インド・スリランカ・アフガニスタン・カタール・クウェート・バーレーンで、女子は日本・中国・タイ・ヨルダン・ベトナム・インド・チャイニーズタイペイ・トルクメニスタン・フィリピン・香港でした。いずれもインドア・ハンドボールではお目にかかれない国が多く、更にそれらの国が日本以上の実力を持っていることに驚かされました。

日本は第2回オマーンでのアジアビーチゲームズに出場経験のある学生中心のチームを編成し、数回の合宿を重ね出場準備をしました。まずは予選ラウンド各組2位以内通過を目標に日本の代表として全力で戦いましたが、小差のところで男女とも3位に終わり、惜しくも決勝ラウンドに進むことができませんでした。

しかし女子は決勝に進んだチャイニーズタイペイに勝利、男子は強豪タイに2連勝と、その実力は着実にアップしていることを実感しました。結果、女子5位、男子7位と決勝ラウンドに進出したチームに続く成績でした。

大会運営は北京オリンピック・広州アジア大会を経験している関係から運営マニュアルは確立しているようで、運営規模は広州アジア大会を小さくした型のものでした。選手村・アクセス（輸送）・会場運営もそっくりでした。おおむねスムーズに運営され、詳細部分を除いて満足できるものでありました。

今後のビーチハンドボールについて、普及の部分は全国で大会が開かれていますが、競技という点で考えると課題・問題点が多々あります。IHF、AHF が重点事業に掲げているだけに「まだまだ」と言っているうちにすぐに数年が経ってしまうことから、現地役員と私とでまとめた具体策の案をベースに、ビーチハンドボール委員会からの早急な問題提起と地道な実行が必要と考えております。

[男子]

ビーチハンドボール男子監督　大原 康昇

中国（海陽）で6月16日より開催されたアジアビーチゲームズに参加いたしました。ビーチハンドは男女ともに参加チームは増加傾向で、男子は14チーム出場で、A・B・Cの3ブロックに分かれ、日本はA（中国、タイ、オマーン）ブロックで予選リーグを戦いました。目標である6位以上には届かなかったが、短期間の強化練習と、あの体格差のなか選手諸君はよく健闘してくれた事に感謝する次第です。結果は次の通りです。

■6月21日（木）
[7-10位1回戦]
日本　2（21－14、16－14）0　アフガニスタン

1セット目　先制のシュートチャンスを3回続けて作りながら外し、アフガニスタンに先取点を取られる。暫らくアフガニスタンのリードが続くが、5分過ぎからディフェンス陣の頑張りとGK寺尾の好キープがあり、更に高良のスュートが絡み一気に逆転する。2セット目に入り序盤でシュートミスはしたもの、日本主導の試合運びとなり、5分過ぎから相手のチャージングを誘い、小川のシュートで追い付いた後、残り3分に福嶋の効果あるシュートでリード。終了まで集中力が保たれ攻防共に積極的に仕掛け完勝。

[個人得点] 高良：11点、小川：8点、福嶋：7点、土居：6点、中村武・寺尾：2点

[7-8位決定戦]
日本　2（21－23、20－12、8－6）1　タイ

1セット目、タイの速いパス回と速攻等から、スカイパスからスカイシュートの連続得点が続き日本はペースが掴めない。しかし、石橋が速攻シュートを決めてから攻撃も纏まりだし、ディフェンスも相手の攻撃を先読みする状況が出てきたが、2点差まで詰めた所で終了。2セット目、1セット目終盤の先を読んだディフェンスとGK寺尾の身体を張ったファインプレーの連続でタイの焦りを誘った。シュートが決まらなくなったタイに対して日本は確実に得点を重ねショットアウトに持ち込んだ。ショットアウトでもGK寺尾の好プレーで3本のシュートを止め、このプレーが選手を奮い立たせシュートを確実に決め勝利した。この結果7位となった。

[個人得点] 石橋:15点、小川:11点、高良:10点、土居:8点、中村武：3点

【今後の対策と課題】

①ビーチ専門のナショナルチームの継続的な編成。今回のチームも試合ごとにチーム力は上がっていた。できればこのような大会での経験を持つ選手、指導者を継続的に育成することが重要である。

②今回ある程度成功した横の動き（ズラシ）の技術を更に磨き、高さに対抗できる技術をチームとして持つこと。（高いところから、高いスカイパスは阻止できない）

③セット 10 分間で攻防の回数はそう多くは無い。4 対 3 でオフェンス有利であるのでシュートはもっと確実性の高いものにしなければならない。また、GK においてはシュート阻止率を高いものにしなければならない。

④ユニーフオーム規格の統一。前回より良くなったが規格外のユニフームでも許可されている（特に女子)。試合に有利に働くことがあるので、統一にすべき。

⑤常設練習場所の確保。優勝したカタールは国内リーグが終わった後、７人制ナショナルチームを軸に、ほぼ毎日練習を行ったとか。オマーンも週３日練習してこの大会に臨んだとかで、我々は、練習場所の面、経費の面も含め、合宿は２回のみで参加せざるを得なかった。砂上での練習量が余りにも少な過ぎます。味の素スポーツ科学トレーニングセンターあたりで、ビーチサッカー・ハンド・バレーが使用できる施設の設置を要望する次第です。

最後に、本大会に参加させていただいた、JOC 並びに日本ハンドボール協会の関係各位に厚く御礼申し上げると共に、わが国に於いても益々のビーチハンドの発展とビーチ施設の充実を願いつつ報告といたします。

ビーチハンドボール男子キャプテン　中村 広生

第３回アジアビーチゲームズに出場して、私たちは多くのことを学びました。事前の合宿では、砂の上でプレーすることに慣れるために走り込みや、ジャンプトレーニングなどに重点をおいて練習しました。技術面では、ビーチハンド特有の交代制度や回転シュートの練習などで個々の能力やチームの連携などを深めました。また、日本代表としての自覚や勝ちにこだわる姿勢、なにより日の丸を背負うことの重みというものを心に刻み合宿を終えました。

実際に、中国へ行き試合をして私たちが感じたことはまず体格の差でした。国内の練習や試合では味わうことのできない大きさで、初めは少し戸惑いを覚えました。国内ではそれを想定しながら練習をしていましたが実際の DF の当たりの強さやスカイプレーの高さはその予想を遥かに上回りました。一方戦術的な面では国内で考えて練習した速攻の形や不意を突いた交代など、大きな選手相手にも通用するものはありました。DF 面では、初めは下がって守るスタイルで守っていましたが、小柄な私たちは前に出るしかないと気づき積極的に足を動かして相手にプレッシャーをかける守り方で戦いました。大会を通して出た課題は DF の先読み、シュート決定率を上げることです。小さくても DF の読みができて積極的に駆け引きすることができれば守れるということを実感しました。シュートもノーマークは作ることができたので後は個々の確率さえ上がればメダルに近づくことができたと思います。

結果は７位に終わりメダル獲得という目標は達成できませんでしたが、日本代表選手として最後まで勝ちにこだわり戦うことができました。日本の他の競技の選手や監督なども試合の応援に来て下さって、日本を代表して戦っているということをより強く実感しました。今大会を通して、私たちは日本代表選手として戦うことの重みや支えてくれる人への感謝の心を学ぶとともに、他国の選手とのコミュニケーションや文化の違いに触れたことにより様々な経験を積むことができました。この経験を今後のハンドボール人生に生かしていきたいと思います。

最後にハンドボール協会の方々、ビーチハンドボールの関係者の皆様、ご支援戴きありがとうございました。

[女子]

ビーチハンドボール女子監督　辻　昇一

６月 16 日から 22 日まで中国（海陽）行われた第３回アジアビーチゲームスに出場致しました。この大会は、ビーチスポーツのアジア大会という位置づけであり、OCA（アジアオリンピック評議会）主催の大会でありました。

日本のビーチハンドボール競技への参加が決定してから、選手選考は昨年度の第 15 回ビーチハンドフェスタスプリングカップ富浦さざ波大会、サマーカップ富浦さざ波大会、第 13 回全日本ビーチハンドボール選手権大会３大会の結果を対象として行いました。全日本ビーチハンドボール選手権大会で優勝した日本体育大学を中心として、準優勝のあぶらおおめからピルエットシュートが得意な一戸いずみ、サマーカップ優勝の国際武道大学からビーチ経験が豊富で体格的に大柄なポストプレーヤーの中谷香織、日本ハンドボールリーグの三重バイオレットアイリスに所属している漆畑美沙を加えた布陣でチームを編成しました。

強化合宿は、７人制ハンドボールのスケジュールの合間を縫いながら、千葉県富浦海岸にて３月 16 日～ 18 日、５月 30 日～６月３日の２回実施しました。スタッフ、選手一緒になって、ビーチ特有の技術や戦術を短期間で作り込みながら、国際大会に向けて攻防戦術の落とし込みを中心に行いました。

大会直前にも、本会場で地元の中国やフィリピンと練習試合を行うことができ、少ない時間を有効に使いながら大会に臨めたと感じています。

大会期間中を通して、コンディションも良く、チーム状態も良好でありました。キャプテン漆畑がチームを引っ張り、大会開会式で日本選手団の旗手を務めた最年長の中谷が細やかの気遣いで動いてくれたことも、その要因に挙げられます。

予選リーグは大混戦となりました。初戦で、ビーチに特化した強化を進めているチャイニーズタイペイ（今大会銀メダル）に２－１で勝利し、好スタートを切りましたが、２戦目でトルクメニスタンに、１セットを 16 － 17、２セット目を６－７と両セット共に１点差で０－２と落としてしまったことが、その後の結果に大きく響いてしまいました。選手達は持ち直し、翌日のインドに勝ちましたが、日本のトルクメニスタン戦敗北で息を吹き返したベトナムに１－２で負け、準決勝に進む

ことができませんでした。5－8決定戦に進んでからは、ヨルダンに勝ち、トルクメニスタンにリベンジし、最終成績4勝2敗で5位となりました。1セット10分という試合時間と、得点者や得点方法によって点数が変わるルールの中では、非常に緻密なビーチ専用の戦術が必要になります。そんな中、青山が得点ランキング9位に入り、また中谷もポスト、ピルエットシューターとしてコンスタントに力を発揮してくれました。メダルに届かなかったことは、私の力不足にあります。

男女ともに上位国は、ビーチに特化した強化を進めており、特に7人制でアジア上位に名前が挙がってこない国々がビーチ強化に舵を切っている印象でした。また、中国は地元での金メダル獲得に向けて大型選手を揃えてきていました。

最後になりましたが、この大会参加まで普及や合宿受入れにご尽力戴いたビーチハンドボール委員会、千葉県ハンドボール協会、兵庫県ハンドボール協会、日本ハンドボール協会、JOC関係の皆様方、また、お忙しい中選手を出して戴いた各所属先の皆様方に心より感謝申し上げます。

ビーチハンドボール女子キャプテン　漆畑 美沙

第3回アジアビーチゲームズに出場が決まり、私達は優勝を目標に掲げました。出発前に行われた二回の合宿では、走り込み、砂場でのシュート練習、攻防、速効、作戦など入念に行いました。選手同士のコミュニケーションもコート内外で取り合い、相手のことを理解し、意見を共有し合いました。そして、私たちは日本代表選手であることの自覚と責任を感じるとともに、国の代表として戦い結果を残すことが使命であり、皆様の期待と応援に応えることが役目だと思い、プライドを持って大会に出発しました。

私は、チームの主将として9人のチームワークを大切にし、常に皆で意見を出し合い、チームにとって一番いい方法を選択することを意識しました。プレーや立ち振る舞いでチームを引っ張れるように、どんな時もこれでいいのか？勝つために必要か？と考えて行動しました。

大会結果は、5位。メダルにも届きませんでした。7人制ハンドボールと違い、1セットが10分しかない為、一本で勝敗が大きく変わることを改めて感じました。また、勝ち越せる場面でシュートが決まらず2セット目を取られ、ショットで勝敗を決める試合が多くなってしまいました。私たちの敗因は、決定力不足と相手に対する対応力不足だったと大会を終えて感じています。大会を通して、他国から学んだことは、私たちが思いつかなかったビーチ特有の戦術や人員の交代方法です。ビーチハンドボールは奥が深く、もっと勉強して知識を増やしたいと思いました。

今後も、ビーチハンドボールに関わり、国際試合で結果を残すことが出来る日本チームになりたいと思います。大会に行った選手は、私も含め、それぞれが自分のハンドボール人生において大きな刺激を受け、今後自分のハンドボールに対する取り組み方について考える良いきっかけにもなりました。私たちにはこの経験を今後に必ず活かします。応援してくださり、支えていただいた関係者の皆様、有難うございました。

【戦評】

■6月20日（水）

日本　2（23－22、24－26、10－8）1　ヨルダン

余裕ある試合ペースで得点を重ね№4漆畑の2点シュートで突き放しにかかるがヨルダンに追い込まれ最後は全員で1点を守りきって1セット目を取る。2セット目は№10青山のロングシュートが決まり、又№5青木の確実なシュートで得点を重ねていた。しかし終盤に追いつかれ、さらに終了間際にヨルダンに6mシュートを判定されシュートを決められ逆転される。シュットアウトは先行となり、両チームともピルエットシュートで得点を重ねたが4本目のヨルダンのシュートをGK小野澤が見事に止めた。5人目の漆畑は気楽になったのか公式試合で初めてのピルエットシュートを決め日本は全員が2点のショットアウト完勝だった。しかし、両セットとも確実に試合をものにできる状況だったのに追い込められての勝利は反省の余地がある。

[個人得点] 青山：10点、一戸：8点、中谷・斉木：6点、漆畑：4点、沓掛：2点

■6月21日（木）

[5-6位決定戦]

日本　2（9－11、12－10、8－6）1　トルクメニスタン

予選リーグで敗退した相手で力が入り過ぎたのか、シュートミスが続いてしまった。8分まで2回同点に持ち込んだが、最後にフィールドキーパーに2点シュートを決められ1セット目を失う。2セット目に入り監督の指示か、開始早々着実に1点のシュートを連取し、常にリードした状況を作り出し、№10青山の2点シュートが決まり、更に終盤5連続得点があり逃げ切りショットアウトに持ち込んだ。後攻で始まったショットアウトはトルクメニスタンが2点先行で日本がミスで始まった。日本の№6沓掛№3一戸の2点シュートに対してトルメニスタンの3番・4番目の選手が1点シュート更に5番目の選手をGK小野澤が止め、最後の№4漆畑が苦手のピルエットシュートを決めサドンデスに突入。先行になったが1番手の№1中谷が冷静にピルエットを決めた。相手の1番手エースのシュートを止GK小野澤が止めて日本の勝ち。全試合を通して選手は良く頑張り5位が決まった。

[個人得点] 一戸：8点、大山：7点、中谷：6点、青山：4点、漆畑・沓掛：2点

男子団体球技の危機

由利 英明（朝日新聞社）

日本の男子団体球技は、危機的な状況にある。その代表例が、バスケットボールだろう。

日本のバスケットボール界には、小口スポンサーを複数集めてチームを運営する地域密着型プロのbjリーグと、企業チームが主体の日本リーグがある。

日本バスケットボール協会は、この2リーグを統合し、2013年から本格的なプロリーグを発足させる予定だった。

しかし企業チームがプロ化に反対し、bjから「新リーグ」に参加したのは1チームだけ。実質的に、これまでの日本リーグと変わらないリーグが、名称を変えて始まることになった。

企業チームの主な目的は、社員の士気高揚や福利厚生、会社の広告宣伝だ。一方、Jリーグのようなプロチームは、地域のファンのために存在する。根本的に理念が違うため、企業チームはプロ化を簡単には受け入れられない。サッカーより規模が小さい他の競技団体は、スポンサーでもある企業チームの意向には逆らえない。

バスケットは、欧米よりレベルが落ちるアジアでもプロ化が進んでいる。その結果、日本は相対的に弱体化し、1976年モントリオール大会以来、五輪から遠ざかっている。ロンドン五輪アジア地区予選も5位に終わり、五輪世界最終予選にも進めなかった。

世界標準のプロリーグをつくらなければ、世界から取り残されるのは明らかだ。日本バスケットボール協会会長の麻生太郎元首相は、何度もプロの必要性を語ってきたが、プロ化は成功しなかった。今後も努力を続けるというものの、企業チームの説得には時間がかかるとみられる。

これは、他の団体球技にも共通した問題だ。プロ化に成功したのは19年前のサッカーのJリーグだけ。その結果、ロンドン五輪に出場する男子団体球技も、サッカーだけとなった。野球が五輪競技から外れたことも大きいが、ボイコットした1980年モスクワ五輪を除くと、団体球技がすべて出場を逃した1952年ヘルシンキ五輪以来の不振となる。その野球もプロだ。

五輪に関心の高い日本は、どうしてもメダル至上主義に陥る。例えば、競技団体を統括する日本オリンピック委員会（JOC）の強化トップは、上村春樹・日本柔道連盟会長ら、個人競技出身者が占める。文部科学省の医科学支援事業、マルチサポートの対象も、女子のサッカーとバレーボール以外は、個人競技が中心になっている。

男子の団体球技は、国内的にも強化の主対象から外され、さらに弱くなるという悪循環に陥っている。ジュニア世代からの一貫指導をしようとしても、十分な体制が組みにくい。

いま、ブラジルのリオデジャネイロは、2016年五輪に向けて準備を進めている。ブラジル・オリンピック委員会の強化担当であるマルクレ・フレイレさんは、バレーボールを例にして強化方法を説明した。

「かつては日本のスピードが世界を席巻した。その後はソ連など東側諸国のパワーが世界を制した。今はスピードとパワーが融合している。それを学べるのは、イタリアなどのプロリーグだから、ブラジルの選手はどんどん海外に出る。そこが日本と違う」

日本がこのまま、企業チーム主体のアマチュアリーグを続ければ、選手は海外のプロに挑戦しにくい。その結果、世界のレベルからますます離されていく。絶海の孤島で、動物が独自の進化を遂げたガラパゴス諸島のようだ。

バスケットやバレーほど競技人口が多くないハンドボールで、プロ化は無理という意見が多い。ただ、バスケットのbjのチームの多くは、年間1億円前後の小規模経営だ。クラブ型チームが生まれているハンドボールでも、決して不可能とはいえないだろう。

ただ、1競技団体の努力では、プロ化はできない。JOCも文部科学省も、国際競技力向上を掲げるなら、プロ化の問題に踏み込むべきだ。

高松宮記念杯

第２回 全日本社会人ハンドボール選手権大会

最終順位

男子

優勝：大崎電気
２位：トヨタ車体
３位：大同特殊鋼
４位：湧永製薬
５位：豊田合成
６位：Ｈｏｎｄａ
７位：トヨタ紡織九州
８位：北陸電力
９位：ＨＣ岐阜
10位：トヨタ自動車東日本
11位：トヨタ自動車
12位：八光自動車工業

女子

優勝：広島メイプルレッズ
２位：オムロン
３位：北國銀行
４位：ソニーセミコンダクタ
５位：香川銀行Ｔ・Ｈ
６位：三重バイオレットアイリス

個人賞

男子

[優秀監督賞]
岩本真典（大崎電気）

[ＭＶＰ]
浦和克行（大崎電気）

[ベストセブン]
志水孝行（湧永製薬）
千々波英明（大同特殊鋼）
宮﨑大輔（大崎電気）
樋口　睦（湧永製薬）
﨑前博章（トヨタ車体）
豊田賢治（大崎電気）
富田恭介（トヨタ車体）

[最優秀新人賞]
信太弘樹（大崎電気）

女子

[優秀監督賞]
呉　成玉（広島メイプルレッズ）

[ＭＶＰ]
堂面妙子（広島メイプルレッズ）

[ベストセブン]
藤間かおり（オムロン）
上町史織（北國銀行）
宋　海林（広島メイプルレッズ）
藤井紫緒（オムロン）
田邉夕貴（北國銀行）
早川志歩（広島メイプルレッズ）
高山智恵（広島メイプルレッズ）

[最優秀新人賞]
田邉夕貴（北國銀行）

大会を振り返って

全日本社会人ハンドボール連盟理事長
春日井 条治

昨年度より新にスタートいたしました「全日本社会人ハンドボール選手権大会」ですが、「第２回」大会を宮城県宮城郡利府町にて開催いたしました。今大会は「東日本大震災復興支援大会」とさせていただき、有志のチームが大会開催前より宮城県内にて講習会・被災地での復興支援活動と勢力的に活動していただきましてお礼申し上げます。また、大会開催に際し、東北ハンドボール協会・宮城県ハンドボール協会ならびに大会関係者の皆様方、ご協賛頂きました企業様、他数多くの方々のご尽力・ご協力の賜物であり心より感謝とお礼を申し上げます。

さて、第２回大会は男子12チーム、女子６チームの出場となり、男子は昨年度優勝の大同特殊鋼、準優勝のトヨタ車体、３位の大崎電気、４位のトヨタ紡織九州をシードとし、予選トーナメントを勝ち上がった４チームによる決勝リーグ戦、女子は３チームに分かれ予選リーグを行い決勝トーナメントにて優勝を争いました。

大会の内容につきましては数々の白熱したゲームが続き、男子決勝リーグは予選を勝ち抜いた大同特殊鋼、湧永製薬、大崎電気、トヨタ車体の４チームでの優勝争いとなり、男子ファイナルは１勝１敗の大崎電気と２分の湧永製薬。共に勝てば優勝の両チームの対戦は、序盤一進一退で進むものの、中盤より大崎電気が東長濱や新人・信太の得点でペースをつかみ13対９と大崎電気リードで前半が終了。後半は両チーム譲らず一進一退の攻防が続いた結果、前半のリードを守った大崎電気が第２回大会優勝の栄冠を獲得しました。

女子は昨年優勝の北國銀行を破ったオムロンと広島メイプルレッズが決勝で対戦。両チームとも譲らず一進一退の攻防が続き、延長戦でも結果が着かず7mスローコンテストとなりました。結果、広島GK堂面のスーパーセーブにより広島メイプルレッズが第２回大会優勝の栄冠を獲得しました。

この度の大会はロンドンオリンピック出場を果たせなかった後の最初のビッグゲームであり、新たな出発の大会となりました。選手全員がこの大会の意義にふさわしい感動と勇気を与えてくれるプレーを見せていただき心より感謝いたします。

最後になりますが、今後のハンドボールの発展の為、「全日本社会人ハンドボール連盟」としても、種々の施策を模索しながら貢献して行く所存ですので、これまで以上のご支援・ご鞭撻をお願いしながら、大会終了の報告とさせて頂きます。

男子優勝：大崎電気

大崎電気ハンドボール部監督　**岩本 真典**

はじめに、高松宮記念杯第２回全日本社会人ハンドボール選手権大会を開催するにあたり、ご尽力いただいた社会人連盟をはじめ日本ハンドボール協会、地元宮城県、ならびに関係各位の皆様に改めて、心より厚く御礼申し上げます。

この度、高松宮記念杯第２回全日本社会人ハンドボール選手権大会において実業団選手権（51 回）も含め通算２年ぶり 16 回目の優勝を果たすことが出来ました。

これも一重に日頃から大崎電気ハンドボール部を支えてくださっている渡邊オーナーをはじめ従業員の皆様、そして多くのファンの方々の力あってこその結果だと思っております。そして何より、昨年一年間悔しい思いをした選手の努力の賜物だと思っています。試合に出場している選手は勿論、ベンチを怪我や戦術という理由で外れた選手もチームの為に最善を尽くし、22 名の選手が役割を果たしてくれたことに感謝しております。

また今大会は、東日本大震災復興支援事業として、とどけようスポーツの力を東北へ！をスローガンにすべてのチームスタッフ、関係者が東北の復旧、復興に少しでもお役立ちできるように挑んだ大会でありました。宮城県で行われたことはとても意義深くその地で優勝出来たことに、関係各位の皆様に改めて感謝申し上げます。

日本のスポーツ界はオリンピック一色ですが、残念ながらハンドボール競技は男女とも出場できませんでした。チームとしても責任を感じております。この優勝をスタートにこれまで以上の努力を重ねてこれからも大会ごとに成長し、国内で継続して勝てるチーム、そして世界に通用するチームを目指して日々、精進していきます。

今後とも大崎電気ハンドボール部を宜しくお願い致します。

女子優勝：広島メイプルレッズ

広島メイプルレッズ主将　**新城 明奈**

はじめに、高松宮記念杯第二回全日本社会人ハンドボール選手権大会の開催にあたり、ご尽力を頂きました関係者各位の皆様方に心より感謝申し上げます。

今大会は昨年３月に発生した東日本大震災の被災地である宮城県での開催でした。大会前にバスで石巻市を訪れましたが、瓦礫が山のように積まれていて、１年４ヶ月経った今でもこのような状態なのか…と言葉を失いました。また、それと同時にハンドボールができる喜びを改めて感じ、この地で優勝したいと強く思いました。

予選リーグの１戦目はオムロンとの対戦でしたが、自分達のやってきたことが徹底できず大敗してしまいました。しかし、後がなくなった２戦目の香川銀行戦では、決勝トーナメント進出に向けてチームが一つになり勝つことができ、準決勝のソニーセミコンダクタ戦も苦しみながらも勝利することができました。

そして迎えた決勝の舞台、対戦相手は予選リーグで敗れたオムロンでした。リベンジするんだという思いと、久しぶりの決勝の舞台を楽しもうという思いで試合に挑みました。

試合は一進一退の攻防で両チームとも譲らず、延長でも決着がつかず、7m スローコンテストまでもつれました。

７年ぶりの優勝ということで、やっと、やっと掴んだ日本一でした。

後半残り３秒で同点に追い付いて、延長に持ち込んだこと。延長後半ノータイムの 7m スローを GK が止め、7m スローコンテストに持ち込んだこと。今まで勝負どころで弱かった私たちですが、この優勝は本当に自信になりました。

そして何より、この地で優勝できたことを嬉しく思います。ありがとうございました。

写真提供：スポーツイベント社

第32回

全国クラブハンドボール選手権大会・東地区大会

【最終順位】

■男子		■女子
会長杯		
優勝	蓮田クラブ（埼玉県）	青森クラブ Pink（青森県）
2位	東陽（栃木県）	日吉台クラブ（千葉県）
3位	桜門クラブ（東京都）	古川ハンドボールクラブ（宮城県）
	青商クラブ（青森県）	福島クラブ（開催地＝福島県）
市長杯		
優勝	上送（山形県）	REDS（埼玉県）

大会を振り返って

福島県ハンドボール協会事務局広報担当　飯塚 敏章

今年で32回目となった全国クラブハンドボール選手権大会東地区大会。そのうち、17回連続18回目の開催地となった福島県本宮市は智恵子抄に歌われた安達太良山が最も美しく眺望でき、ゆったりと北上する阿武隈川のある自然に恵まれた場所であります。

その本宮市をはじめ、福島県は東日本大震災で大変な被害に遭い、多くの帰宅困難者が地元・自宅に戻れない状況にありますが、これからも希望をもって諦めず前に進んでいきたいと考えております。

なお、今大会のタイトルには【東日本大震災復興支援　日本協会創立75周年記念】がつけ加えられ開催されました。日本ハンドボール協会をはじめとする関係者の皆さま、そして各ブロックの予選を勝ち抜いたチーム・監督・選手・関係者の皆さまの協力があってのことだと思います。

紙面上ではございますが、県協会を代表し、心より感謝申し上げます。

さて、この全国クラブハンドボール選手権大会はこれまで【東】と【西】の2地区で開催されていましたが、来年度より【東】・【中】・【西】の3地区での開催が決定しております。東地区でいえば、北信越ブロックが【中】地区へ移る形となり、残念ではありますが北信越のチームにとっては最後の東地区大会となりました。

今大会も過去に優勝経験のあるチームが多く出場し、男子16チーム・女子8チームで激戦が繰り広げられました。3日間とも晴天で外温は30℃を越え、体育館はそれ以上で選手や審判員の皆さまは体調管理に苦労したと思います。本当にお疲れさまでした。

今大会も日本ハンドボール協会公認審判員A級審査会の舞台になったことでより一層緊張感のある大会となりました。微妙なプレーを冷静かつ正確にレフェリングする審判員の育成はハンドボール競技力向上に必要不可欠な要素であると思います。今回も審判審査指導委員会委員長の越田先生をはじめとする審査員の皆さまが来福され、26名のA級受験生に的確なアドバイスをしていたのを目の当たりにし、心強くなりました。

[男子決勝]

蓮田クラブ　25（10-9、15-10）19　東陽

蓮田クラブのスローオフで前半が始まり、開始54秒蓮田クラブ10番の野口がシュートを決めると、東陽の4番齋藤・17番荻原・15番志賀が3連続シュートを決めるなどスピーディーなゲーム展開に…。東陽は前半終了までに警告3枚うけながらも、積極的なディフェンスで蓮田クラブの攻撃を食い止めると、蓮田クラブは東陽の堅いディフェンスを攻略するべく10番野口・19番広政・20番山口を中心に多彩なパスワークで相手陣地に攻めこみ、白熱したゲームが印象的でした。前半は互角の戦いで10対9の蓮田クラブ1点リードで折り返し。

後半始まって1分までに東陽7番鶴見・18番中村の連続得点で逆転し、後半10分で15対13と東陽が2点リードする展開となった。逆転された蓮田クラブは後半11分から10番野口の3連続得点、14番福島のミドル・カットインシュートなど怒濤の7連続得点で一気に再逆転し、流れを引き戻した。残り5分で20対15の蓮田クラブ5点リードとなり、東陽は堪らずタイムアウト請求。ゲーム再開後、東陽17番荻原が鮮やかなシュートを決めるものの、勢いづいた蓮田クラブに追いつくことができず、蓮田クラブが5年ぶり3回目の優勝を収めた。

[女子決勝]

青森クラブ Pink　20（9-11、11-7）18　日吉台クラブ

青森クラブ Pinkのスローオフで前半が始まり、序盤は静かなゲーム展開に。開始5分が過ぎた時点で3対2日吉台クラブが1点リードとなる。動きに硬さが目立った青森クラブPinkだったが、前半6分過ぎから調子が良くなり7番時苗・8番小田内・3番秋村（朋）・4番山田の4連続得点が決まり逆転すると、日吉台クラブはタイムアウトを請求。ゲーム再開後、日吉台クラブ6番本村がシュートを決め、日吉台クラブの追撃がスタート。日吉台クラブ7番水本と5番阿部らが加点し、前半は11対9日吉台クラブ2点リードで終了した。

後半開始直後、青森クラブ Pink 4番山田・8番小田内がシュートを決め11対11の同点となると、それ以降は確実に7mスローも決めお互いに譲らず、こう着した試合運びとなった。17対17の同点だった残り90秒、青森クラブPink 4番山田がシュートを決めて1点リードとなると、残り60秒で日吉台クラブ5番阿部が意地のシュートで応戦し、またも同点。残り50秒となり、リスタートを仕掛けた青森クラブPinkは速いパス回しからチームの主砲でキャプテンでもある3番秋村（朋）に最後のシュートを託す形に…。ディフェスの死角から放たれたサウスポー独特のそのシュートはゴール隅に決まり、青森クラブ Pinkが見事優勝を決め、激戦に終止符がうたれた。青森クラブ Pinkは2年ぶり3回目の優勝を果たした。

男子優勝：蓮田クラブ

蓮田クラブ監督兼選手（GK） 佐藤 浩

この度、全国クラブ選手権東地区大会にて優勝することができ、応援していただいた埼玉県協会や蓮田クラブジュニアの皆様に感謝申し上げます。

今大会における蓮田クラブの優勝は平成10年、平成19年に続き5年ぶり3回目となります。

本クラブは、埼玉県蓮田中で斉藤良昭先生（故人）、半村茂夫先生に教わったOBを中心に構成されており、創部から30年以上経つ埼玉県内では歴史あるクラブです。

今大会を振り返ってみますと、チームの状態として主力選手3人が仕事や怪我で出場出来ないと言う、決してベストとは言えない布陣で臨まざるを得ない状況でした。しかし昨年、準決勝で思わぬ敗退を期してから今大会での雪辱に燃える選手達の気持ちは強く、初戦湖陵クラブ戦を勝利してからは勢いに乗り一気に決勝までコマを進めることが出来ました。

決勝の相手東陽（栃木）は平均年令が30歳以下で関東学生リーグを経験している選手がおり、さらに東京の強豪2チームを倒して勝ち上がってきたこともあって、実力もさることながら勢いもあるイヤな相手です。対する蓮田クラブも経験豊富な選手は居るものの平均年齢が高く、暑い中での戦いと言うこともありかなりの苦戦が想定されました。

しかし実際試合が始まってみると一進一退の攻防が続き前半は10対9の1点リードと、大善戦と言える出来栄えで前半を終える事が出来ました。後半も一進一退が続きましたが後半5分、13対12の場面から東陽に3連取され13対15の2点ビハインドと一気に苦しい状況に。しかしそこから自慢のDF陣が踏ん張り9分間無失点。その間に7連取して一気に逆転し後半19分で20対15と5点のリードを奪いました。その後1点返されるもすぐ2連取し、残り4分でこの試合最大の6点差を付け、最終的に25対19で勝利を収めることが出来ました。

今回の優勝は主力を一部欠いていたこともあり、ベンチメンバーも全員出場してまさに総力戦で獲得した今までで一番価値ある優勝であると思っております。

最後に大会を運営していただいた福島県協会、地元選手の皆様にこの場を借りて感謝申し上げます。

女子優勝：青森クラブPink

青森クラブピンク筆頭者 主将 秋村 朋枝

「すごい！ 最高！ よくやった！」優勝を決めた時のみんなの第一声です。

昨年度、思うように結果が出せずにいた我がチーム。「攻める気持ちが足りない」「歳のせいではなく、練習不足」という監督の言葉に励まされながらも、どこかで「もう限界なのかな…」という思いもあり、メンバーそれぞれが複雑な気持ちを抱えた1年でした。

しかし、今年度最初の県大会を始め、東北クラブ選手権大会、続く国体県予選で優勝。1戦ごとに、個々のプレーに対する意識が「積極的に前へ」と高まっていき、この思いがチーム力を強め、ようやく大きな壁を乗り越えた気がします。

怪我人を含めギリギリの人数で挑んだ今大会は「目指せ1勝」が目標でした。

初戦は、接戦の末逆転勝利、2回戦も勢いに乗り勝利し、決勝進出。決勝で対戦した日吉台クラブは、個々の能力やチーム力も素晴らしく、対戦相手ながら、プレー1つ1つに感心するほどでした。でも私達は、「自分のできることに全力を尽くす」「疲れても諦めずにプレーする」ということを念頭に最後まで戦い、接戦の末、優勝を手にすることができたのです。

我がチームは、他のチームに比べ、決して上手なチームとはいえません。でも、本大会に3回出場し、3回とも優勝できたことは、偶然ではないと思っています。

みんなで勝ち獲った優勝。この結果は、チーム一丸となって戦った裏に、何年も熱心に指導して下さる山上監督や、いつも親身になって支えて下さる三浦コーチの存在があったからだと確信しています。

大会関係者、審判団、出場チームの方々、大変お疲れ様でした。そして、本当にありがとうございました。

第32回

全国クラブハンドボール選手権大会・西地区大会

【最終順位】

■男子		■女子	
優勝	ボンチフェローズ（大阪府）	優勝	レキオクラブ（沖縄県）
2位	沖縄クラブ（沖縄県）	2位	HC 長崎（長崎県）
3位	HC 春日井（愛知県）	3位	BRHC（岐阜県）
4位	中央クラブ（香川県）	4位	HC 岡山（岡山県）

大会を振り返って

山口県ハンドボール協会社会人連盟委員長　下松 直樹

平成24年7月20日～22日、山口県周南市のキリンビバレッジ周南総合スポーツセンターにおいて、第32回全国クラブハンドボール選手権大会西地区大会が、梅雨明け前にも関わらず好天に恵まれ開催されました。

前年同様各ブロック（東海・近畿・中国・四国・九州・開催地）代表の男子12チーム、女子8チームが出場し、2日間の熱戦を繰り広げました。

7月20日に諸会議及び開会式が行われ、開会式では地元下松クラブの村岡孝典選手が力強く選手宣誓を行いました。

翌21日より競技が始まり、男子は3チームずつ4ブロックに分かれての予選リーグが、女子はトーナメント戦による準決勝までが行われ、いずれも白熱した試合が展開されました。

最終日の22日には、決勝トーナメントと順位決定戦が行われました。地元山口県から出場した男子の下松クラブは予選リーグで今大会初優勝を果たしたボンチフェローズに惜しくも敗れましたが、残りの試合に勝利して5位に入りました。また、地元代表のもう1チームHC40' sは、大半が40歳を超えるメンバーながら、年齢を感じさせないプレーを随所に見せ9位となりました。

女子の部に出場した徳山クラブANEは、新旧（現役選手とかつて現役だった選手？）の力が上手くかみ合い、初戦のBRHC戦では延長戦にもつれ込む大接戦で敗れはしたものの、いずれの試合も白熱した好ゲームを展開し6位となりました。

昨年、この会場において「おいでませ！山口国体」ハンドボール競技が開催され、少年女子が優勝、少年男子も準優勝と地元勢が大活躍したこともあり、ハンドボール競技への関心が高まった中での今大会の開催となりました。連日、ハンドボール愛好者をはじめ、市内外から多くの方が会場に足を運び、熱い声援を送ってくださったことは、本当にありがたいことでした。

終わりに、今大会の開催にあたりご協力いただきました日本協会をはじめ中国協会、周南市協会の皆様、並びに大会運営にあたってくださった競技役員、補助員の皆様に感謝申し上げるとともに、大会にご参加いただきました選手、役員の皆様の今後ますますのご活躍をお祈り申し上げ、また周南の地でお会いできることを期待して、大会の報告とさせていただきます。

[男子決勝]

ボンチフェローズ　28（13-13、15-11）24　沖縄クラブ

開戦早々、ボンチフェローズの2番小島がシュートを決めると、すぐに沖縄クラブ6番中河がポストシュート。序盤、両チームは全く互角の白熱の攻防を繰り広げる。途中、11分過ぎ、沖縄クラブ15番玉那覇の速攻、GK12番山本の好セーブからの攻撃がつながり初の連続得点、沖縄クラブが1点リードを奪って試合が進む。しかし、終盤ボンチフェローズは相手7mスローを、交代したGK 1番小島が阻止。逆に、その直後に得た7mスローを15番関山が決めて、前半を13対13の同点と両者譲らず折り返した。

後半、徐々にリズムに乗ったボンチフェローズは9番吉田からの3連続得点で3点差を開ける。ここで沖縄クラブはタイムアウト。そして、勢いを取り戻し13番宮里の連続速攻などで追い上げ、2点差まで詰める。しかし、ボンチフェローズはGK 1番小島の好セーブ、17分過ぎの沖縄クラブの退場による数的優位を生かし、逆転をゆるさない。終盤詰め寄られるも17番岩城などの速攻などで、沖縄クラブの最後まで闘志あふれる追撃を振り切り、中盤につくったリードを守り、優位に試合を進めたボンチフェローズが栄冠に輝いた。

[女子決勝]

レキオクラブ　24（9-9、15-11）20　HC長崎

HC長崎のスローオフで決勝戦開始。序盤レキオクラブ15番伊良波、8番佐久川のスタンディング、5番赤峯のサイドで得点すれば、HC長崎は2番野津手カットイン、9番小川のサイド、13番河合のサインプレーと一進一退の攻防を繰り広げ、前半24分過ぎ8対8の同点。ここでHC長崎が速攻のチャンスを得て、2番野津手が速攻。このまま1点リードで折り返すかと思われたが、レキオクラブは終了間際、タイムアウトからのセットプレイで11番伊波がサイドシュートを決め9対9の同点で折り返した。

後半も、両者譲らず、互角の展開。しかし、レキオクラブは6分過ぎのHC長崎の退場によるチャンスを生かし、3連続得点を挙げ、試合を優位に進める。HC長崎も14番竹上のシュートなどで必死に追い上げるが、なかなかその差は埋まらない。その後もレキオクラブは、HC長崎の退場時の数的優位で着実に加点し、リードを広げた。終盤、HC長崎も12番谷口などの連続得点で追い上げるが、中盤チャンスを生かしたレキオクラブが、試合の流れを渡さずに最後まで押し切って、栄冠を手にした。

男子優勝：ボンチフェローズ

池田 健太郎

まずは今大会を運営して頂いた日本ハンドボール協会、山口県ハンドボール協会、そしてボランティアの皆様に感謝します。

今回で３回目の出場となった全国クラブハンドボール選手権大会西地区大会、過去の成績は２位が最高でした。

ボンチフェローズは桃山学院高校をホームとし桃山学院高校と桃山学院大学のOBを中心に形成される大阪府のクラブチームです。最近では、大阪社会人リーグ１部リーグで６連覇しており、昨年は全日本ビーチハンドボール選手権大会で優勝と、少しずつではありますが、全国大会に向けて準備をしてきました。

ボンチフェローズが全国大会に出場できる様になったのは約10年前からで今回が初のタイトル獲得となりました。

今大会を振り返り、まずは予選リーグで過去に一度も勝った事のない下松クラブに勝利し、準決勝ではHC春日井に後半でリードされる厳しい展開からの逆転勝ち、決勝戦の沖縄クラブ戦については全国大会で過去２度沖縄県のチームに敗戦をしていて、３度目の沖縄県との対戦、終始リードされる展開からの逆転勝ちで優勝を飾る事ができました。

今大会を通じて多くの勉強をさせていただき対戦した全てのチームが素晴らしいチームであった事、そして感謝をしています。平均年齢32歳のチームで１日２試合を２日間という過酷なスケジュールの中での優勝できた事を本当にうれしく思います。

最後になりますが、ボンチフェローズをご支援頂いている桃山学院高校の高橋先生、井上先生本当にいつもありがとうございます。そして全国の皆さん大阪府のボンチフェローズをこれからも宜しくお願いいたします。

女子優勝：レキオクラブ

東江 功子

第32回全国クラブハンドボール大会西地区大会において、昨年に続き目標にしていた２連覇を達成することができ大変嬉しく思っています。

我がレキオクラブは、創部27年目を迎えました。創部当時は海邦国体の成年女子チームとしてのスタートでした。国体が終了した後もチームに残っているのは私一人ですが、20年選手、10年選手のベテランと若手選手で少人数ながら週１、２回の練習を続けて毎年県代表として九州大会に出場しながら、全国大会出場を目指しています。

今大会は、沖縄県の国体メンバーで、チームの大黒柱である佐久川、伊良波、小さな守護神GKの城間がしっかりとその役割を果たしてくれました。守りではベテラン勢が頑張り、攻撃では、若手の伊波、比嘉などが速攻で活躍し、昨年一時チームを離れていた運動量豊富の赤峯選手も復帰し、新人や若手選手を含め、全試合に全員が出場し、それぞれの力を発揮しての優勝でした。試合前の練習は全員集まることはほとんどなく、『今できるメンバーで今できることをしっかりやる！』というチームのモットーで少人数でもしっかり指導してくれた東江監督にも恩返しができました。今後のチームや若手選手にとってもいい励みになったと思います。

私自身、昨年は仕事の都合で出場できなかったのですが、今大会において、私を含め、ハンドボール歴の長い選手やかつて日本リーグで活躍した名選手が多く参加していて、「ハンド馬鹿はどこにでもいるなあ」と大変懐かしく、嬉しい限りでした。全国各地においてハンドボールをこよなく愛し、携わっている愛好者の皆様、生涯スポーツとしても十分に楽しめるハンドボールの発展のために今後も頑張っていきましょう。

今年度が最後で来年度からは３地区に分かれての大会になるということですが、西地区最後の大会が山口県のすばらしい施設、環境のもとで試合ができたこと、さらにいい結果を残すことができたことは思い出深い大会となりました。

最後に今大会の開催にあたりご尽力いただきました山口県ハンドボール協会の皆様、関係役員の皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

第37回 日本ハンドボールリーグ 日程

【レギュラーシーズン】2012/09/01 ～ 2013/02/24　男子は９チーム２回戦総当たりリーグ戦、女子は６チーム３回戦総当たりリーグ戦
【プレーオフ】2013/03/09 ～ 03/10　男子はレギュラーシーズン上位４チーム、女子は上位３チームのトーナメント

週	月日	開催地	会場	男子		女子	
		都道府県		時間	組合せ	時間	組合せ
1	9月1日（土）	埼玉県	和光市総合体育館	14:00	大崎電気 vs 豊田合成		
		愛知県	東海市民体育館	13:00	大同特殊鋼 vs 琉球コラソン		
		広島県	中区スポーツセンター	14:00	湧永製薬 vs 北陸電力		
		熊本県	熊本県立総合体育館	14:00	ﾄﾖﾀ紡織九州 vs トヨタ車体		
2	9月8日（土）	石川県	金沢市総合体育館			13:00	北國銀行 vs ＨＣ名古屋
		広島県	東区スポーツセンター	15:00	湧永製薬 vs 琉球コラソン	13:00	ﾒｲﾌﾟﾙﾚｯｽﾞ vs オムロン
		鹿児島県	霧島市国分体育館			14:00	ソニー vs 三重
	9月9日（日）	宮城県	フラップ大郷21	13:00	ﾄﾖﾀ自動車東日本 vs 大崎電気		
		山形県	東根市民体育館	16:30	大同特殊鋼 vs ﾄﾖﾀ紡織九州		
		愛知県	豊田合成（株）健康管理センター	14:00	豊田合成 vs 北陸電力		
3	9月15日（土）	石川県	小松総合体育館			13:00	ソニー vs ﾒｲﾌﾟﾙﾚｯｽﾞ
						15:00	北國銀行 vs オムロン
		静岡県	静岡市中央体育館	15:30	ﾄﾖﾀ紡織九州 vs 大崎電気	13:00	三重 vs ＨＣ名古屋
		広島県	湧永満之記念体育館	13:00	ﾄﾖﾀ自動車東日本 vs 大同特殊鋼		
				15:30	湧永製薬 vs トヨタ車体		
	9月16日（日）	福井県	北陸電力福井体育館フレア	14:00	北陸電力 vs 琉球コラソン		
	9月17日（月）	福井県	北陸電力福井体育館フレア	15:00	北陸電力 vs ﾄﾖﾀ紡織九州	13:00	北國銀行 vs ソニー
		愛知県	ブラザー体育館	15:00	豊田合成 vs 琉球コラソン	13:00	ＨＣ名古屋 vs オムロン
		広島県	東区スポーツセンター			14:00	ﾒｲﾌﾟﾙﾚｯｽﾞ vs 三重
		岡山県	総社市スポーツセンター（きびじアリーナ）	13:00	ﾄﾖﾀ自動車東日本 vs 湧永製薬		
				15:00	トヨタ車体 vs 大同特殊鋼		
4	9月22日（土）	愛知県	豊田合成（株）健康管理センター	16:00	豊田合成 vs 大同特殊鋼	13:30	ＨＣ名古屋 vs ﾒｲﾌﾟﾙﾚｯｽﾞ
		三重県	鈴鹿市立体育館			13:00	三重 vs 北國銀行
		京都府	京都府立体育館	13:00	トヨタ車体 vs 北陸電力	15:00	オムロン vs ソニー
		佐賀県	トヨタ紡織九州クレインアリーナ	15:00	ﾄﾖﾀ紡織九州 vs ﾄﾖﾀ自動車東日本		
	9月23日（日）	長崎県	佐世保市体育文化館	14:00	大崎電気 vs 琉球コラソン		
5	9月29日（土）	東京都	墨田区総合体育館	14:00	ﾄﾖﾀ自動車東日本 vs 琉球コラソン		
		福井県	北陸電力福井体育館フレア	14:00	北陸電力 vs 大崎電気		
		愛知県	中村スポーツセンター	15:00	大同特殊鋼 vs 湧永製薬	13:00	ＨＣ名古屋 vs ソニー
	9月30日（日）	福岡県	福岡県立ｽﾎﾟｰﾂ科学情報ｾﾝﾀｰ（ｱｸｼｵﾝ福岡）	14:00	豊田合成 vs トヨタ車体		
6	10月13日（土）	福井県	北陸電力福井体育館フレア	14:00	北陸電力 vs ﾄﾖﾀ自動車東日本		
		広島県	中区スポーツセンター	15:00	湧永製薬 vs 大崎電気	13:00	ﾒｲﾌﾟﾙﾚｯｽﾞ vs 北國銀行
		佐賀県	トヨタ紡織九州クレインアリーナ	15:00	ﾄﾖﾀ紡織九州 vs 豊田合成		
		熊本県	山鹿市鹿本体育館			14:00	オムロン vs 三重
	10月14日（日）	沖縄県	県立武道館アリーナ	16:00	琉球コラソン vs トヨタ車体		
7	10月20日（土）	愛知県	知立市福祉体育館	14:00	トヨタ車体 vs ﾄﾖﾀ自動車東日本		
		三重県	ゆめドームうえの			14:00	三重 vs ＨＣ名古屋
		広島県	湧永満之記念体育館	15:30	湧永製薬 vs 豊田合成	13:00	ﾒｲﾌﾟﾙﾚｯｽﾞ vs ソニー
	10月21日（日）	石川県	小松総合体育館			13:00	北國銀行 vs オムロン
		愛知県	中村スポーツセンター	13:00	大同特殊鋼 vs 大崎電気		
		沖縄県	東風平運動公園体育館	14:00	琉球コラソン vs ﾄﾖﾀ紡織九州		
8	10月27日（土）	宮城県	大和町総合体育館	13:00	ﾄﾖﾀ自動車東日本 vs 豊田合成		
		福井県	北陸電力福井体育館フレア	14:00	北陸電力 vs 大同特殊鋼		
		三重県	三重県営鈴鹿スポーツガーデン体育館			14:00	三重 vs ﾒｲﾌﾟﾙﾚｯｽﾞ
		佐賀県	神埼中央公園体育館	15:00	ﾄﾖﾀ紡織九州 vs 湧永製薬		
		熊本県	熊本県立総合体育館	16:00	大崎電気 vs トヨタ車体	14:00	オムロン vs ＨＣ名古屋
		鹿児島県	霧島市国分体育館			14:00	ソニー vs 北國銀行
9	11月2日（金）	愛知県	ウィングアリーナ刈谷	19:00	トヨタ車体 vs 豊田合成		
	11月3日（土）	栃木県	栃木市総合体育館	14:00	湧永製薬 vs 大同特殊鋼		
	11月4日（日）	岩手県	花巻市総合体育館	14:00	大崎電気 vs 北陸電力		
10	11月10日（土）	東京都	墨田区総合体育館	14:00	ﾄﾖﾀ自動車東日本 vs 北陸電力		
				16:00	大崎電気 vs 湧永製薬		
		愛知県	稲沢市総合体育館	12:30	トヨタ車体 vs 琉球コラソン		
				15:00	豊田合成 vs ﾄﾖﾀ紡織九州		
11	11月17日（土）	埼玉県	富士見市立市民総合体育館	14:00	大崎電気 vs 大同特殊鋼		
		岐阜県	ヒマラヤアリーナ（岐阜アリーナ）	16:00	豊田合成 vs 湧永製薬		
	11月18日（日）	宮城県	フラップ大郷21	13:00	ﾄﾖﾀ自動車東日本 vs トヨタ車体		
		山梨県	甲州市塩山体育館	13:00	ﾄﾖﾀ紡織九州 vs 琉球コラソン		

12	11月23日(金)	富山県	氷見市ふれあいスポーツセンター	14:30	トヨタ自動車東日本 vs トヨタ紡織九州		
				16:30	北陸電力 vs トヨタ車体		
	11月24日(土)	福井県	北陸電力福井体育館フレア	14:00	北陸電力 vs 湧永製薬		
		沖縄県	浦添市民体育館	13:00	琉球コラソン vs 大崎電気		
				15:00	大同特殊鋼 vs 豊田合成		
	11月25日(日)	長野県	千曲市戸倉体育館	13:00	トヨタ車体 vs トヨタ紡織九州		
		沖縄県	浦添市民体育館	14:00	豊田合成 vs 大崎電気		
				16:00	琉球コラソン vs 大同特殊鋼		
13	1月12日(土)	愛知県	ブラザー体育館			13:00	HC名古屋 vs 北國銀行
		広島県	東区スポーツセンター			13:00	ソニー vs 三重
						15:00	メイプルレッズ vs オムロン
	1月14日(月)	広島県	東区スポーツセンター			13:00	三重 vs 北國銀行
						15:00	メイプルレッズ vs HC名古屋
		熊本県	山鹿市総合体育館			15:00	オムロン vs ソニー
14	1月19日(土)	三重県	鈴鹿市立体育館			14:00	三重 vs オムロン
		広島県	中区スポーツセンター			14:00	メイプルレッズ vs 北國銀行
		鹿児島県	霧島市国分体育館			13:00	ソニー vs HC名古屋
15	1月26日(土)	愛知県	ブラザー体育館			13:00	HC名古屋 vs 三重
		熊本県	山鹿市総合体育館			13:00	ソニー vs メイプルレッズ
						15:25	オムロン vs 北國銀行
16	2月2日(土)	愛知県	ブラザー体育館			13:00	HC名古屋 vs オムロン
		広島県	東区スポーツセンター			14:00	メイプルレッズ vs 三重
		沖縄県	21世紀の森体育館	14:00	琉球コラソン vs トヨタ自動車東日本		
	2月3日(日)	石川県	金沢市総合体育館			13:00	北國銀行 vs ソニー
17	2月9日(土)	愛知県	ブラザー体育館			13:00	HC名古屋 vs 北國銀行
		三重県	名張市総合体育館			14:00	三重 vs ソニー
		香川県	高松市香川総合体育館	13:00	湧永製薬 vs トヨタ自動車東日本		
				15:00	大同特殊鋼 vs トヨタ車体		
		大分県	大分県立総合体育館	12:30	琉球コラソン vs 北陸電力		
				14:30	大崎電気 vs トヨタ紡織九州		
	2月10日(日)	佐賀県	神埼中央公園体育館	13:00	琉球コラソン vs 豊田合成		
				15:00	トヨタ紡織九州 vs 北陸電力		
		熊本県	熊本県立天草工業高等学校体育館			14:00	オムロン vs メイプルレッズ
	2月11日(月)	愛媛県	松山市総合コミュニティーセンター体育館	13:00	大同特殊鋼 vs トヨタ自動車東日本		
		高知県	くろしおアリーナ	13:30	トヨタ車体 vs 湧永製薬		
18	2月16日(土)	福井県	北陸電力福井体育館フレア	14:00	北陸電力 vs 豊田合成		
		広島県	中区スポーツセンター			14:00	メイプルレッズ vs HC名古屋
		鹿児島県	霧島市国分体育館			13:00	ソニー vs オムロン
	2月17日(日)	奈良県	生駒市民体育館	14:00	大崎電気 vs トヨタ自動車東日本		
		富山県	富山市総合体育館			14:00	北國銀行 vs 三重
		佐賀県	神埼中央公園体育館	15:00	トヨタ紡織九州 vs 大同特殊鋼		
		沖縄県	沖縄市体育館	14:00	琉球コラソン vs 湧永製薬		
19	2月23日(土)	愛知県	中村スポーツセンター	15:00	大同特殊鋼 vs 北陸電力	13:00	HC名古屋 vs ソニー
		愛知県	豊田合成(株)健康管理センター	14:00	豊田合成 vs トヨタ自動車東日本		
		広島県	東区スポーツセンター	14:00	湧永製薬 vs トヨタ紡織九州		
		熊本県	人吉スポーツパレス			14:00	オムロン vs 三重
	2月24日(日)	石川県	小松総合体育館			13:00	北國銀行 vs メイプルレッズ
		愛知県	知立市福祉体育館	13:00	トヨタ車体 vs 大崎電気		

プレーオフ	3月9日(土)	東京都	駒沢体育館	女子準決勝
				男子準決勝
				男子準決勝
	3月10日(日)	東京都	駒沢体育館	女子決勝
				男子決勝

～日本代表に愛称を～

企画･広報委員
早川　文司

　ロンドン五輪を報じるテレビや新聞を見ていると、またも出場を逃した悔しさが胸中を掛けめぐってきた。出場しないのはハンドボール、バスケットボールだけ、24競技がひのき舞台に立った。
　やはりと言うべきか、残念ながら日本のスポーツ報道は、五輪やワールドカップ級の世界のビッグイベントでないとなかなか取り上げてもらえない。４年後には何としても晴れの舞台で勇姿を見たいものである。
　ところで日本ハンドボール界に提案がある。
　五輪に出場を決めた球技には、サッカー男女や女子バレーボール、女子ホッケーなどがあるが、みな愛称がついている。サッカーは男子が「サムライブルー」、女子はすっかりお馴染みになった「なでしこジャパン」。バレーボール女子は「火の鳥ＪＡＰＡＮ」。そしてホッケー女子は「さくらジャパン」だ。また、８月に日本国内各地で開催のＵ－20女子ワールドカップ・サッカーに出場する日本女子代表の愛称は大会期間中に限られたものの「ヤングなでしこ」の愛称を使った。
　こうした愛称は結果が出れば出るほど、広く親しまれることはワールドカップで優勝した「なでしこジャパン」を見れば明らかである。
　そこで皆さんに呼びかけたい。ハンドボール界も愛称をつけアピールすればどうだろうか。一つのアイデアとして思い浮かぶのが「ムササビ」だ。2003年神戸で開かれたアテネ五輪アジア予選で大会マスコットキャラクターに採用した。
　ご存じの方も多いと思うが「ムササビ」とは往年の日本のスターで、ソウル五輪の監督を務めた野田清氏の華麗なサイドシュートについたニックネームだ。サイドから飛び込み、宙を舞うシュートは本場欧州でも脚光を浴びたと言われる。
　また応援マフラーやキーホルダーなどのグッズもお目見えしたし、大会期間中には実業団と大学生が競い合う「ムササビ・クロスカップ」と銘打った男女の大会も開かれた。
　“アクロバット的”なプレーは、日本人特有の長所から考案されたものではないのだろうか。いくら大型化が進んだとはいえ、欧州勢に対抗するには、日本人の特徴を最大限生かしたプレーも欠かせないと思う。
　新たな挑戦をスタートさせる機会をとらえ、愛好者はもちろん広く一般から愛称を募ってはいかがかと考える。広く募集することはハンドボールのアピールにもつながると思うし、関心を高めることにもひと役買うのではないだろうか。世間に注目されれば、強化につながることにもなろう。ぜひとも協会に一考をお願いしたいものである。

審判員の身体状況とパフォーマンス変動（初年度報告）

医事専門委員会　貝沼圭吾（三重大学附属病院）　佐久間克彦（熊本赤十字病院）　坂本静男（早稲田大学大学院）

医科学研究として、昨年度より、“審判員の身体状況とパフォーマンス変動に関する研究” に取り組んでおります。初年度ということもあり、基礎的なデータ検討を行う事を目的に、第36回日本リーグおよび第63回全日本総合選手権において、審判員に心拍計を装着させ、試合中における運動量、身体状況に関する評価を行いました。得られたデータをもとに、H24.3.16に開催されました日本体力医学会東海地方会において発表しましたので、その報告をさせていただきます。

ハンドボール競技では、審判員にも選手に近い運動量が求められるとされている。他競技においては審判員に関する運動量を評価した報告が散見されるが、ハンドボール競技における審判員の運動量さらに身体状況の変化を評価した研究報告はわれわれが渉猟し得た範囲では認めない。そこで試合中の運動量および身体状況の変化を記録して、審判員に要求される運動量を評価。さらに審判員へ情報をフィードバックすることでパフォーマンスの向上につながる事を目的に研究を開始した。

日本ハンドボール協会公認の男性上級審判員16名に心拍計、ストライドセンサー（POLAR RS800CX RUN）を装着し、試合中における心拍数変動、ストライド、走行距離を記録した。年齢から算出した最大心拍数（220－年齢）を基準に、運動強度に相当する心拍領域を設定した。心拍数変動が設定領域をどのように推移するかを記録して運動量の評価を行った。また、走行距離についてはストライドセンサーから得られる情報と試合ビデオも併用した実際の攻撃回数などを参考に整合性を確認した。

全審判員での平均心拍数は、149.5 ± 25.5bpm であり、審判員の年齢別に分類すると、20歳代審判員では、157.9 ± 16.3bpm、30代では、141.3 ± 10.5bpm、40代では 140.2 ± 15.5bpm であり、この差は年齢に応じた生理的な変動と考えられた。最大心拍数から算出した心拍領域での検討では、全年齢層を通じて 70-89%HRmax の hard intensity の領域での運動であった。走行距離の検討では、平均 4089 ± 530m であり、他で報告されている選手の一試合での平均走行距離 4370 ± 702m と比較し、ほぼ同等の結果が得られ、審判員にも選手と同等の運動量が求められる事が明らかになった。研究初年度であり、検査の整合性を確認する事も目的としたが、ビデオで攻撃回数を元に走行距離を概算したところ、約3750m と算出され、整合性も確認する事が可能であった。

今後は、審判員レベル、試合レベルでの検査対象を拡げ、レベルに応じた心拍領域などを比較検討する事で、上級審判員に求められる体力を提言し、ハンドボール審判員における体力、技術向上の一助となるよう検討を重ねていく予定である。

東アジアハンドボール連盟 [会議要旨]

1．日時　2012年4月21日
　午前9時30分～11時
2．場所　フジタホテル福井
3．内容

①東アジアハンドボール連盟会長挨拶
②各国代表挨拶
③ホスト国の経費負担軽減
　現行ホスト国が外国チームの滞在費を全て負担している。この負担を軽減する為、来年以降は参加チームから滞在費について応分の負担をしてもらう。
　第10回大会より、1人1日80ドルの滞在費を参加国はホスト国に支払う。
④前回会議議事録の承認
⑤東アジアハンドボール連盟2012年会計報告
⑥第10回東アジアハンドボールクラブ選手権
　時期：2013年4月
　場所：韓国
⑦東アジア大学選手権
　2013年に韓国で第1回を開催する。
　大会の名称としては、U22東アジア選手権とする。
⑧東アジアハンドボール連盟役員の変更
　新会長‥ヒュンキュンチョン（韓国）
　新専務理事‥ペンニン（中国）
　市原会長は名誉会長に就任する。
　台北及び香港より副会長を追加選出する。

平成24年3月10日～11日、駒澤大学において第10回ハンドボールコーチング研究会が開催されました。本研究会は、全国指導者が自身の経験や・知見を持ち寄り、実際の現場で有用な情報を共有する機会として位置付けられています。

ハンドボールコーチング研究会の発表につきまして、本誌で報告する運びとなりました。

今月は明石光史先生（福岡大学）の発表内容「暑熱下におけるハンドボール試合中の水分摂取に関する研究」を報告させていただきます。なお、他の発表については次号以降で報告を連載いたします。

（財）日本ハンドボール協会指導委員会研究部会　舎利弗　学（学校法人福島高等学校）

暑熱下におけるハンドボール試合中の水分摂取に関する研究

明石光史、後藤慶大、田中　守（福岡大学スポーツ科学部）

キーワード：暑熱下、水分摂取、移動距離

【緒言】

暑熱下における運動中の熱生産量増加は体温を上昇させ、発汗量が増加するとされている。運動中における発汗と運動能力との関係では、筋力や有酸素性作業能力のパフォーマンス低下、注意力、集中力、反応時間といった認知パフォーマンスの低下が見られ、1.4％の発汗による体重減少により3～20％の運動能力が低下すると報告されている。また、同じ発汗量でも気温の高い暑熱下のほうが、パフォーマンスの低下が大きいとも報告されている。従って、暑熱下における運動中の水分摂取状況はパフォーマンスに大きく影響する重要な要因と言える。

一方、ハンドボール競技における試合中の水分摂取は、水分摂取場所が限られていることから自由に水分を摂取することは難しい。また、近年、試合展開のスピードアップにより、水分摂取を行うタイミングも難しくなっていると考えられる。従って、ハンドボール試合中の水分摂取の状況や、発汗によるパフォーマンスの影響について検討する必要性が考えられる。

そこで、暑熱下においてハンドボール模擬試合を実施し、水分摂取量とパフォーマンスやポジション特性との関係について検討した。

【方法】

1．対象者：F大学男子ハンドボール部14名（身長：176.1±3.13、年齢：20.07±1.2）

2．測定日時：2011年8月19日午前10時54分試合開始（天気：晴天、温度：摂氏33℃、湿度：73％）

3．測定方法：公式試合と同様のウォーミングアップ後、公式試合と同様なルールで模擬試合を行った。なお、模擬試合はCP、GKを合わせて7人対7人のメンバー構成で行ったので、選手交代は行なえない設定である。被験者は、ウォーミングアップ終了後の試合開始直前と直後に、裸体の状態で体重を測定した。試合直前の体重測定から試合直後の体重測定の間、排尿による体内水分の減少は無かった。試合中、被験者は決められた場所で水分摂取を行い、水分の成分は水とした。さらに、試合終了までの水分摂取時間、回数、摂取量を記録した。

また、2台のビデオカメラを使用して2方向（コート側方、ゴール後方）よりコート全体を撮影した。後に選手の移動距離を求めるため、コートを1/155に縮小した記録用紙に、選手の移動状況を1分毎に記録し定規にて計測した。

4．算出方法：以下の項目に関する算出方法を示す。

・水分脱水量＝（試合前体重＋水分摂取量）－試合後体重

・水分摂取率＝水分摂取量 / 水分脱水量×100％

【結果及び考察】

模擬試合の結果は、前半16対20、後半18対14、合計34対34の引分けであり、前後半ともに両チームからのタイムアウト申請はなかった。試合の実施環境である摂氏33℃は、日本体育協会による熱中症予防のための指針によると、積極的に休息や水分補給を行う必要がある厳重警戒の範囲であった。

コートプレーヤー（以下、CP）の模擬試合実施前の平均体重は約66.70±4.2kgであり、試合直後の平均体重は約65.87±4.1kgであった。また、CPの平均水分摂取量は、前後半、ハーフタイム合わせて約1160.83±253.5mlであった。これらから、平均水分脱水量は約1994.17±413.8mlとなった。試合中及びハーフタイム中、合わせて約1160mlの水分摂取を行っていたのにも関わらず体重が減少したことは、試合中において大量の発汗が起こったと考えられ、水分摂取量の不足が認識された。さらに、試合前後での体重減少は1%以上であることから、パフォーマンスの低下が推測された。

そこで、CPにおいて、試合中のパフォーマンス指標の一つとなる総移動距離と水分摂取量等との関係を検討してみたところ、総移動距離と総水分摂取量、前半の移動距離と水分摂取量との間に有意な関係は見られなかったが、後半における移動距離と水分摂取量との間に有意な相関関係が認められた（図1）。前半の疲労が残る後半において、高い水分摂取量を確保することが、パフォーマンスを低下させないことに繋がると考えられる。

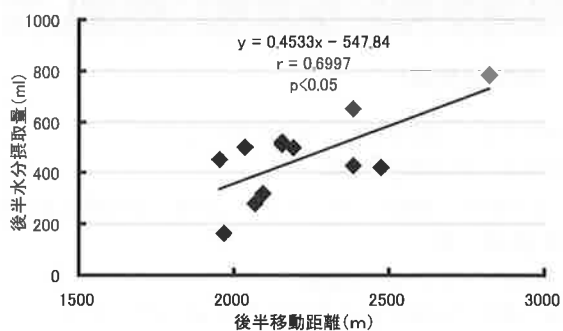



図1．CP における後半の移動距離と水分摂取量との関係

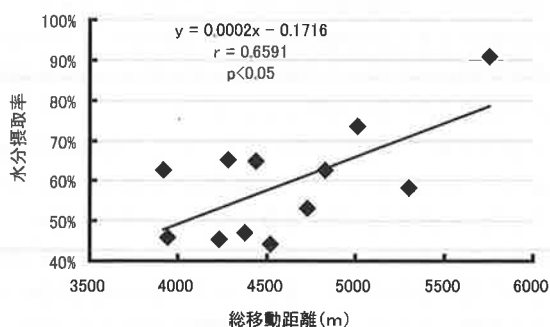



図2．CP の総移動距離と水分摂取率との関係

図3．ディフェンスポジションの割り当て

図4．ディフェンスポジション別平均水分摂取量

図5．ディフェンスポジション別平均水分摂取回数

一方、水分摂取は個々の発汗量によって必要水分摂取量も変わってくることから、個人における体重の増減と水分摂取量を加味した割合である水分摂取率と総移動距離との関係を見てみると、有意な相関関係が認められた（図2）。このことから、暑熱下においてパフォーマンスを高く発揮するためには、個人の水分脱水量に対して高い水分摂取量を確保する必要があることが示唆された。

次に、ディフェンスポジションの違いによる水分摂取への影響について検討してみる。ハンドボール試合中の給水場所はほぼ限定されていることから、図3のようにディフェンスポジションを給水場所から近い順に割り当て、水分摂取量と回数の調査を行った。なお、ベンチの位置が入れ替わる後半においても、再度ポジションを割り当てた。その結果、前半における水分摂取量と回数は、給水場所から遠い⑤と⑥のポジションにおいて他のポジションより少ない結果となった（図4，5）。後半においても給水場所から遠い⑤のポジションは、水分摂取量、回数共に少ない結果となったが、⑥のポジションにおいては反対に多い結果となった。

メンバー交代の無い本研究の模擬試合は、ベンチに戻って給水をすることが出来ない設定である。従って、給水場所から遠い⑤や⑥のポジションの選手は、7mT や審判によって試合時間が止まる時間帯でなければ、給水が困難であると考えられる。従って、⑤や⑥の選手は給水場所からの距離が遠いことから、給水のタイミングが少なくなり、水分摂取量や回数は少なくなったと考えられる。しかし、後半における⑥の選手の水分摂取量と回数が多くなったことは、⑥の選手の内の一人の移動距離が本研究における最大値である約5700m にも達していることが影響していると考えられる。運動量の多さが、果敢に給水のタイミングを計らせ水分摂取量と回数を増加させたと考えられる。

平成24年度JHA公認審判員B級審判員中地区審査会に参加して

西岡修平（愛知県ハンドボール協会所属）

この度、6月29日から7月1日まで、京都府立山城総合運動公園太陽が丘体育館で行われました「平成24年度中地区B級審査会」に参加させていただきました。思い返すと、この審査会を受けるまでには長く、またほろ苦い経験もありました。

私は、大学4年生のときにJ.H.A.レフェリーコースに参加させていただきました。結果は残念ながら不合格でした。一生懸命トレーニングをして、レフェリーコースに臨んだだけに、正直この結果にショックを受けました。諸先輩方から励ましのお言葉をいただき、レフェリーコースに再チャレンジしたい気持ちでしたが、大学を卒業して一般企業に勤務することになりました。なかなか思うようにレフェリー活動もできない状況でしたので、レフェリーコースではなく、C級からB級へとなるためのB級審査を受けることにしました。受験資格を得るまでに2年間必要でした。その間に、勤務の合間を見つけては東海学生連盟の試合を吹きに行かせていただき、審判技術向上のために研鑽を積んできました。この2年間は決して無駄ではなかったと確信しています。それだけに、会場へと向かう中、緊張感が徐々に高まっていきました。

■6月29日（金）

17：00　京都府立山城総合運動公園太陽が丘体育館に集合

審査委員4名（越田義昭氏、岸本光夫氏、吉田敏明氏、浅井隆志氏）、受験生20名

18：00　ジャパンオープン近畿予選大会審判会議（審査大会）

越田審判審査指導委員長から段階的罰則、笛の強弱・長短やジェスチャーの分かりやすさなど選考基準について説明があり、受験生は真剣な顔つきでメモをとり、会議室にピリッとした緊張感が走りました。

19：00　競技規則問題筆記試験

ふだんの試合では遭遇することの少ない試合状況の問題もあり、難しい場面でも正しくジャッジするために、競技規則を正確に理解することが重要だと改めて感じました。

試験終了後、宿泊施設に移動

1日目を終え、受験生一同、ホッとした様子で移動しました。

■6月30日（土）

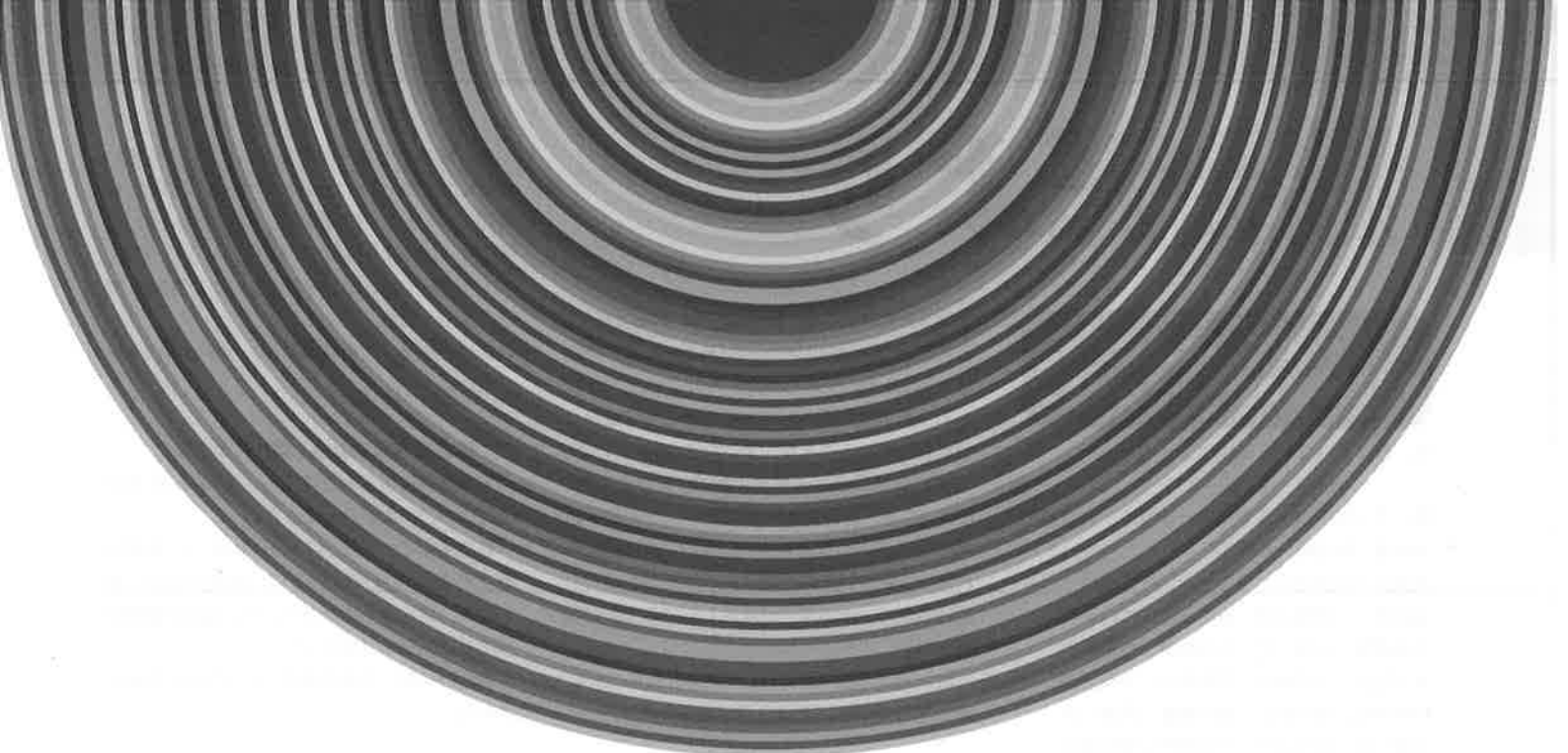
2日目は、いよいよ実技試験。

今回、個人で試験に臨んだ方も含め10ペアになり、8ペアが2日目、2ペアが3日目に実技の審査が行われました。審査は1試合なので、緊張感が漂う中、ふだんのレフェリングをどれだけ発揮できるかが問われました。試合前にどういうペアリングをするのかを各ペアで話し合っていたり、試合を観戦して試合の雰囲気をつかんだりしていました。

コートが2面あり、審査員の方は各コート2人体制で審査を行いました。試合を終えたペアは審査員の方にご指導していただきました。B級審査は単に審査するだけでなく、力のこもった指導をしてくださり、それぞれのレフェリーに今後の課題を与えていただける場でした。自分ではなかなか気付けない細かな点もご指導いただき、B級審査を受験できたことはそれだけで大きな意味がありました。また、試験の合間には、受験生どうし、試合の感想や今後どのようなレフェリーを目指していくのか語り合い、県を越えた交流を深めることができました。それも、審査会での貴重な経験となりました。

■7月1日（日）

3日目は、残る2ペアの実技の審査が行われました。実技試験を終えた受験生は、試合観戦をしていました。好ゲームが多く、私は一観戦者として試合に見入ってしまい、ハンドボールの魅力を改めて感じました。ハンドボールの魅力は、選手だけでは伝えられないと思います。選手がどれだけいいプレーをしても、それを判定するレフェリーがプレーを正しく評価しなければ、いいプレーを引き出し、魅力あふれるハンドボールの試合にすることはできないと思います。面白いと思える試合は、必ずレフェリーがいい仕事をしています。私はそんなレフェリーになりたいと、今回の審査会で改めて強く感じました。そのためにも、今後より一層の研修を積んでいきます。

最後になりましたが、この審査会でご指導いただきました、越田先生をはじめとする審判審査指導委員の先生方、そして、地元の東海ブロックでここまでご指導賜りましたブロック審判長の楓先生をはじめとする諸先輩方に、心から感謝申し上げ、B級審査会の報告とさせていただきます。今後ともご指導をいただきますよう、宜しくお願い致します。

協会だより

平成 24 年度
第 1 回評議員会・第 1 回理事会

日　時：平成 24 年 6 月 9 日（土）
　　　　10:00 ～ 12:00
場　所：豊田市・スカイホール豊田　大会議室
出席者（敬称略、名簿順）
評議員：松喜美夫、田辺哲彦、後藤義信、会田真一、齋藤光男、氷海正行、竹内佳明、青木政雄、中浦　悟、石川直樹、村木啓作、夏目眞治、名倉昭弘、花野相三、千葉英之、田中秀和、森江和吉、藤井俊朗、高野　修、加藤　晃、松本育男、半田忠史、東福康浩、川村浩之、末次　功、緒方知秋、冨松秋實、宮元章次、岡山明弘、横山英則、齊藤節郎、阿部富夫、市田隆文　　以上 33 名
理事：渡邊佳英、市原則之、多田　博、川上憲太、大橋則一、角　紘昭、西窪勝広、江成元伸、志々場修二、蒲生晴明、藤森　徹、田中　茂、朝生和光、船木浩久、稲生　茂、山川博行、森安昭雄　　以上 17 名
監事：伊藤宏幸、近森克彦
特任副会長：山下　泉、川上整司、鶴保庸介
参事：川原繁樹、小西博喜、小島収治、高山重雄、杉本眞一、中村博幸、佐藤公美、佐藤喜一、坂本静男、中野利一、村松　誠、大原康昇、小山哲央、大村　久、山本　繁、井口京子、佐久間克彦、田中　守、越田義昭、仲田　稔、兼子　真

以上、出席評議員 33 名、委任状出席 19 名、出席理事 17 名、出席監事 2 名、出席特任副会長 3 名、出席参事 21 名、事務局 1 名

〈評議員会・理事会成立の確認〉
開会に先立ち、本年度国体開催地の岐阜県高山市・飛騨市・下呂市各実行委員会より挨拶がなされた。
大橋常務理事より、本評議員会は、評議員定数 53 名のところ、出席 33 名、書面委任 19 名であり、財団法人日本ハンドボール協会寄附行為第 29 条に定められた、3 分 2 以上の出席があり定足数を満たしているため、本評議員会が成立していることが報告された。
又、本理事会は、理事定数 20 名のところ、出席 17 名、書面委任 1 名であり、財団法人日本ハンドボール協会寄附行為第 26 条に定められた、3 分 2 以上の出席があり定足数を満たしているため、本理事会が成立していることが報告された。
次に議長の選出が行われ、寄附行為第 25 条、第 3 項に基づき、渡邊会長が議長となった。

渡邊会長より挨拶
ここ豊田は 4 年半前の 9 月に、北京オリンピックアジア予選が行われたが、いわゆる中東の笛問題で後日前代未聞の再試合が行われた。
ロンドンオリンピックは残念ながら、男女共に出場権を得られなかった。女子の予選は NHK-BS で放送された。今回の反省を踏まえて地道に努力して行きたい。

〈議事録署名人の選出〉
続いて、渡邊議長より議事録署名人の指名が行われ、評議員会は、議長、半田忠史評議員（徳島）、横山英則評議員（社会人）、川上憲太専務理事が、理事会は、議長、川上憲太専務理事、江成元伸常務理事、山川博行理事がそれぞれ指名され、満場一致で承認された。

議事進行は、審議事項より行うこととした。

審議事項

1．平成 23 年度事業報告書（案）について
冒頭に川上専務理事より発言があり、平成 23 年度が非常に苦しい決算内容であった事、財政立て直しのため今後登録金の値上げの検討もしている旨述べた。
その後各担当常務理事より、平成 23 年度の事業について、1）普及指導、2）競技、3）国際、4）審判、5）強化、6）機関誌、7）企画、8）広報、9）財務会計、10）日本リーグ、11）総務、12）10 万人会、13）マーケティングの順に概要が説明された。
審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

2．平成 23 年度決算書（案）について
大橋財務担当常務理事より、平成 23 年度の決算について概要を説明した。
事業活動収入合計 471,984,092 円、事業活動支出合計 508,933,872 円、他積立金取り崩し収入、積立金支出があり、その結果次期繰越額 22,021,083 円となった。
審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

3．監査報告
近森監事より 6 月 2 日に監事 2 名の立ち会いで監査を行い、業務及び会計処理など適性であったことが報告された。
また同監事より、次期繰越金が 6 割減っており、今後極力無駄を省き赤字の状況を脱皮する必要がある旨、発言があった。

4．平成 24 年度第一次補正予算（案）について
大橋財務担当常務理事より、平成 23 年度の決算が確定したことと一部見直しがあったことから、平成 24 年度第一次補正案について説明がなされた。
補正後　事業活動収入合計 550,440,000 円、事業活動支出合計 537,462,000 円、積田立て金収入 23,500,000 円、積立金支出 9,500,000 円、予備費支出 1,500,000 円、当期収支差額 26,978,000 円となり、次期繰越収支差額は 58,700,528 円となることが説明された。
審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

5．役員交代について
渡邊会長より、3 名の理事から退任届が出された事が報告された。高村理事は職場の都合で、植村理事は家庭の都合で、朝生理事は選出団体

となる社会人連盟の人事が理由である。これら3名の理事の辞任が承認され、新たに3名の理事が推薦された。

津川　昭（つがわ　あきら）氏

春日井　条治（かすがい　じょうじ）氏

藤井　俊朗（ふじい　しゅんろう）氏

推薦された3名であり、評議員の満場一致で選任・承認された。

また藤井氏は現在日本協会評議員であるため評議員を辞す事となり、岡山県協会より丸川勝美氏が推薦されており、理事会決議により満場一致で同氏の評議員就任が決まった。

1．丸川　勝己（まるかわ　かつみ）氏

6．平成23年度日本協会表彰者について

大橋総務担当常務理事より、平成23年度の日本協会表彰者について、加盟団体及び日本協会からの推薦者一覧の説明がなされた。

田辺評議員より、現役の者を推薦できる事を表彰規程に入れてはどうか。

大橋常務理事より、表彰規程の施行内規は常務理事会で定めるとなっているので、改定案を検討したい。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

7．2020年オリンピック競技大会東京招致支援決議

市原副会長より、5月23日（現地時間）ケベックで開かれたIOC理事会で、東京がイスタンブール、マドリードと共に2020年オリンピック候補都市として選定された。オールジャパン体制で東京招致を支援してもらいたい。また来年1月には各候補地で、IOCが支持率を調査する。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

報告事項

1．平成24年度会議日程について

大橋常務理事より平成24年度会議日程について説明があった。

2．平成24年度国際・国内・ブロック大会日程について

江成常務理事より平成24年度国際・国内大会日程及び国際・国内大会の中長期予定について説明があった。

3．創立75周年記念事業について

創立75記念事業プロジェクト担当の大橋常務理事より、1）記念誌事業、2）記念式典開催、3）記念表彰、4）記念事業寄付金募集について説明があった。

4．強化（スタッフ、年齢別育成選手、五輪最終予選）について

西窪常務理事より2012年度のナショナルスタッフチーム、専任コーチ等、エリートB、同指導者、ユースエリート及び4月5月に行われたロンドンオリンピック世界最終予選の結果について報告された。

5．年代別育成指定選手、JHAジュニアアカデミー育成選手リスト

田中常務理事より、2012年度の年代別育成指定選手、JHAジュニアアカデミー育成選手について説明があり、今年度からU15の育成開始が示された。

6．2012年度全国大会レフェリー名簿第1版

江成常務理事より2012年度全国大会レフェリーについて説明があった。

7．普及関係（ハンドボール研究集会他）について

角常務理事より第15回研究集会、授業実践者募集及び第3回アジアビーチゲームズ参加の選手団について説明があった。

8．2012NTSについて

角常務理事より2012年度のNTSブロックトレーニング、センタートレーニングについて説明があった。

9．EAHF総会報告他

蒲生常務理事より、4月の東アジアクラブ選手権の際に行われた東アジアハンドボール連盟会議の内容について説明があった。また、文科省の国際的スポーツ人材プログラムに則り、国際委員の稲福貴史氏をIHFへの研修・派遣を進めると説明された。

10．日本リーグ報告

西窪常務理事より平成24年度の事業について説明があった。

11．公益法人移行認定申請経過報告

藤森常務理事より平成25年4月1日公益法人移行について、進捗状況について説明があった。

12．社会人連盟（日本選手権構想）について

朝生理事より同連盟の役員人事について、また江成常務理事より日本選手権構想について説明があった。

13．がんばれハンドボール20万人会について

大橋常務理事より説明があった。

14．その他

各副会長から一言ずつ挨拶戴いた。

川上整司副会長からは、男子は24年間、女子は36年間オリンピックに出場出来ないでいる。NTSと並行して、指導者を集めて日本協会からジュニアの育成についてお願いをしてみてはどうか。リオに出場して、東京ではメダルを狙うようになって欲しい。

多田副会長からは、今年度日本リーグにセントラル自動車が加盟した。リーグの所属チーム数を増やしたい。

市原副会長からは、毎回オリンピックが近づくと、針のむしろに座っている気分だ。全国各地の20万人会の会員数を増やす様にお願いする。

山下副会長からは、財務状況が悪化している。予算がオーバーする様な時は理由書を提出して、理由をきちんと述べなければいけない。

予定していた議案について全て終了したので、12時に平成24年度第1回評議員会・第1回理事会は閉会した。

スコアールーム

第2回全日本社会人選手権大会

開催期日：2012年7月4日(水)～8日(日)
会　　場：宮城県・グランディ・21(宮城県総合運動公園)セキスイハイムスーパーアリーナ

【男　子】

▼1回戦

北陸電力 41 (21－9、20－11) 20 八光自動車工業
豊田合成 32 (13－11、19－10) 21 トヨタ自動車東日本
Honda 36 (20－8、16－12) 20 トヨタ自動車
湧永製薬 30 (19－9、11－10) 19 HC岐阜

▼2回戦

大同特殊鋼 27 (12－12、15－6) 18 Honda
トヨタ車体 35 (18－7、17－15) 22 豊田合成
大崎電気 29 (16－14、13－9) 23 北陸電力
湧永製薬 32 (15－17、17－13) 30 トヨタ紡織九州

▼9－12位戦

HC岐阜 38 (20－10、18－7) 17 トヨタ自動車
トヨタ自動車東日本 31 (12－9、19－14) 23 八光自動車工業

▼11位決定戦

トヨタ自動車 33 (16－9、17－12) 21 八光自動車工業

▼9位決定戦

HC岐阜 29 (15－3、14－9) 12 トヨタ自動車東日本

▼5－8位戦

Honda 25 (9－7、16－12) 19 トヨタ紡織九州
豊田合成 28 (16－11、12－13) 24 北陸電力

▼7位決定戦

トヨタ紡織九州 33 (16－15、17－14) 29 北陸電力

▼5位決定戦

豊田合成 23 (12－11、11－11) 22 Honda

▼決勝リーグ

大同特殊鋼 29 (13－14、16－15) 29 湧永製薬
大崎電気 25 (17－9、8－13) 22 トヨタ車体
湧永製薬 27 (14－13、13－14) 27 トヨタ車体
大同特殊鋼 28 (16－11、12－16) 27 大崎電気
トヨタ車体 29 (12－11、17－12) 23 大同特殊鋼
大崎電気 25 (13－9、12－11) 20 湧永製薬

【男子最終順位】

①大崎電気②トヨタ車体
③大同特殊鋼④湧永製薬

【女　子】

▼予選Aグループ

大崎電気 25 (13－9、12－11) 20 湧永製薬
北國銀行 38 (21－6、17－11) 17 三重バイオレットアイリス
北國銀行 26 (12－9、14－13) 22 ソニーセミコンダクタ
ソニーセミコンダクタ 30 (11－8、19－15) 23 三重バイオレットアイリス

▼予選Bグループ

香川銀行 22 (12－9、10－10) 19 オムロン
オムロン 28 (11－13、17－8) 21 広島メイプルレッズ
広島メイプルレッズ 30 (14－11、16－6) 17 香川銀行T・H

▼5位決定戦

香川銀行T・H 17 (11－3、6－11) 14 三重バイオレットアイリス

▼準決勝

オムロン 27 (11－14、16－10) 24 北國銀行
広島メイプルレッズ 28 (12－10、16－14) 24 ソニーセミコンダクタ

▼3位決定戦

北國銀行 26 (10－13、16－10) 23 ソニーセミコンダクタ

▼決　勝

広島メイプルレッズ 31 (12－12、13－13) 28 オムロン
(1－1 延長 2－2)
(3 7mTC 0)

【女子最終順位】

①広島メイプルレッズ②オムロン
③北國銀行④ソニーセミコンダクタ

第32回全国クラブ選手権大会・東地区

開催期日：2012年7月14日(土)・15日(日)
会　　場：福島県・本宮市総合体育館ほか

【男　子】

▼会長杯1回戦

ラージェスト(東京) 23－20 十和田クラブ(青森)
東陽(栃木) 30－21 函工クラブ(北海道)
桜門クラブ(東京) 25－21 上送(山形)
金津クラブ(福井) 25－21 日川クラブ(山梨)
福島SGクラブ(開催地) 23－19 小金クラブ(千葉)
青商クラブ(青森) 25－20 きときとクラブ(富山)
蓮田クラブ(埼玉) 25－16 湖陵クラブ(北海道)
学石クラブ(福島) 21－17 松本如月クラブ(長野)

▼会長杯2回戦

東陽 31 (15－15、16－14) 29 ラージェスト
桜門クラブ 30 (16－8、14－8) 16 金津クラブ
青商クラブ 22 (13－11、9－10) 21 福島SGクラブ
蓮田クラブ 30 (16－8、14－10) 18 学石クラブ

▼会長杯準決勝

東陽 22 (13－8、9－10) 18 桜門クラブ
蓮田クラブ 26 (13－10、13－14) 24 青商クラブ

▼会長杯決勝

蓮田クラブ 25 (10－9、15－10) 19 東陽

▼市長杯（1回戦敗者戦）
函工クラブ(北海道) 32－29 十和田クラブ(青森)
上送(山形) 29－27 日川クラブ(山梨)
きときとクラブ(富山) 24－19 小金クラブ(千葉)
湖陵クラブ(北海道) 31－22 松本如月クラブ(長野)

▼市長杯準決勝
上送 39（24－8、14－12）20 函工クラブ
湖陵クラブ 27（13－13、14－9）22 きときとクラブ

▼市長杯決勝
上送 27（14－11、13－10）21 湖陵クラブ

【女子】

▼会長杯1回戦
古川クラブ(宮城県) 22－19 筑波学園クラブ(茨城県)
日吉台クラブ(千葉県) 19－11 北海道倶楽部(北海道)
福島クラブ(開催地) 19－11 ドルフィンズ(石川県)
青森クラブPink(青森県) 23－20 R E D S(埼玉県)

▼会長杯準決勝
日吉台クラブ 21（13－6、8－7）13 古川クラブ
青森クラブPink 18（8－6、10－3）9 福島クラブ

▼会長杯決勝
青森クラブPink 20（9－11、11－7）18 日吉台クラブ

▼市長杯（1回戦敗者戦）
筑波学園クラブ(茨城県) 19－18 北海道倶楽部(北海道)
R E D S(埼玉県) 19－14 ドルフィンズ(石川県)

▼市長杯決勝
R E D S 19（11－5、8－8）13 筑波学園クラブ

第32回全国クラブ選手権大会・西地区

開催期日：2012年7月21日(土)・22日(日)
会　場：山口県・キリンビバレッジ周南総合スポーツセンター

【男子】

▼予選Aブロック
下松クラブ(山口) 24－19 今治クラブ(愛媛)
ボンチフェローズ(愛媛) 23－13 今治クラブ(愛媛)
ボンチフェローズ(愛媛) 29－19 下松クラブ(山口)

▼予選Bブロック
H C 春日井(愛知) 26－19 宮崎フェニックス(宮崎)
H C 春日井(愛知) 30－16 セキュリティ(岡山)
宮崎フェニックス(宮崎) 28－24 セキュリティ(岡山)

▼予選Cブロック
咲乱(三重) 21－15 A W C(広島)
中央クラブ(香川) 22－13 A W C(広島)
中央クラブ(香川) 27－18 咲乱(三重)

▼予選Dブロック
沖縄クラブ(沖縄) 19－15 KSVunison(兵庫)
KSVunison(兵庫) 28－16 H C 40's(山口)
沖縄クラブ(沖縄) 31－24 H C 40's(山口)

▼9－11位決定戦
今治クラブ 27（12－7、15－13）20 セキュリティ
H C 40's 34（18－12、16－7）19 A W C

▼5－7位決定戦
下松クラブ 26（11－9、15－11）20 宮崎フェニックス
KSVunison 24（8－9、16－6）15 咲乱

▼準決勝
ボンチフェローズ 18（7－6、11－11）17 H C 春日井
沖縄クラブ 19（9－9、10－7）16 中央クラブ

▼3位決定戦
H C 春日井 17（10－7、7－7）14 中央クラブ

▼決勝
ボンチフェローズ 28（13－13、15－11）24 沖縄クラブ

【女子】

▼1回戦
レキオクラブ(沖縄) 27－10 風見鶏クラブ(兵庫)
B R H C(愛知) 19－18 徳山クラブANE(開催地)
H C 岡山(岡山) 19－17 御座候(大阪)
H C 長崎(長崎) 12－11 香川レディース(香川)

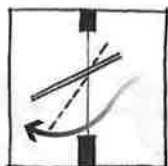
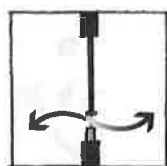
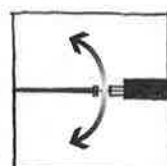
▼5－8位決定1回戦
徳山クラブANE 20（11－6、9－9）15 風見鶏クラブ
香川レディース 20（13－7、7－6）13 御座候

▼7－8位決定戦
御座候 23（10－6、13－7）13 風見鶏クラブ

▼5－6位決定戦
香川レディース 18（8－6、10－6）12 徳山クラブANE

▼準決勝
レキオクラブ 27（10－8、17－7）15 B R H C
H C 長崎 22（9－6、13－7）13 H C 岡山

▼3位決定戦
B R H C 20（11－10、9－9）19 H C 岡山

▼決勝
レキオクラブ 24（9－9、15－11）20 H C 長崎

がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」6・7月入会・継続会員

【北海道】松喜美夫【青　森】田辺貴美子【宮　城】千田文彦【茨　城】浜田裕一【栃　木】渡邊克則
【群　馬】酒井　宏、高橋萬知子、高橋　泉【埼　玉】齋藤和也、佐藤秀明、中野慶子、浅川敏司、佐藤三枝子
【千　葉】松井秀樹【東　京】田島雅史、河内鋭雄、安藤純光、大津武彦、小笠原泰代【神奈川】河野卓也
木本一成、花岡美智子【山　梨】齊藤　實【愛　知】安藤　孝、山田壮八、川合育椰、柴田拓海
【三　重】加藤　祥【京　都】山口栄一【大　阪】里村静俊、戸谷克蔵【兵　庫】高祖加奈子【和歌山】加藤照男
水口幹夫【香　川】田中美季【福　岡】下田昭弘、日野祐一郎、和佐野健吾【長　崎】石井通義【熊　本】陣上修一、
木村淳一

【9月の行事予定】

【会議】……………………………………………………………
　9月15日(土)　常務理事会（東京）
【大会】……………………………………………………………
　9月1日(土)～：第37回日本リーグ
　9月6日(木)～15日(土)
　　第5回男子ユースアジア選手権
　　　　　　　　　　　　（バーレーン・マナーマ）

※前号のお詫びと訂正
前号（2012年6・7月合併号）19ページに掲載されました「全国大会レフェリー名簿」で、下記の誤りがございました。お詫びして訂正させて頂きます。

「全国小学生大会」「JOCカップ」「春の中学生」大会にリストアップされている**「木下豪人・竹ノ下晴彦」**は、「京都」と記載されておりますが、**正しくは「和歌山」所属**です。

HAND BALL CONTENTS Aug. Sep.

（登録チームの購読料は登録料に含む）

asics.com

GELDOUBLESKY 2

グリップ力と耐久性に優れたGELDOUBLESKY2に宮崎大輔選手カラーリングモデルが登場。

(財)日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第五二九号

昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可

平成二十四年八月二十六日印刷
平成二十四年九月一日発行

東京都渋谷区神南一―一―一
電話 代表 〇三―三四八一―二三三六
振替 〇〇一二〇―七―一〇二九三

編集兼発行人 川上憲太

定価 年間三三〇〇円